

倉橋文存用

日本幼稚園協会

N24  
58(1)

# 幼児の教育

第五十八卷 第一号

お茶の水女子大学図書  
昭和49年 8月15日



1



日本幼稚園協会



MITSUI COLOR

# 新作 総天然色 童話スライド



はだかの王様

—美しい影絵童話—

はだかの王様

なまりの兵隊

ジャックと豆の木

ふしぎなランプ

ピーター・パン

各巻 300円

東京都中央区日本橋茅場町3ノ14  
電話 (67) 2732 振替東京 80183

三井芸術スライド社

5～7才のお子さまに

# トツパンのこども百科

全12巻



きしや

近刊

じどうしや

やくにたつ  
どうぶつ

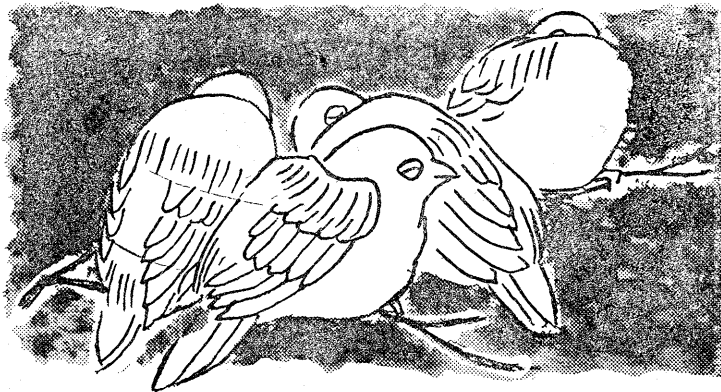
新刊

価各一三〇円  
B5判二二頁

良心的な編集と  
造本の  
子供知識のえほん

# トツパン

東京都中央区日本橋茅場町1の20



新年おめでと  
う  
ございます

幼 児 の 教 育 目 次

— 第五十八卷 一月号 —

表 紙 黒崎義介

教育者の課題……………	嶮山政道…(2)
穴あきボードの遊び……………	及川ふみ…(8)
* 新年の抱負を語る……………	田中阿い…(14)
* 私の抱負……………	浅沼登…(17)
遊具の四季について……………	齋藤公子…(21)
子どもの造形的発想について(1)……………	林健造…(26)
個性に応じた教育……………	黒田成子…(30)
教育計画と個性……………	福田香代子…(32)
個性に応じた教育……………	青木道代…(34)
いろいろの子どもたち……………	梅津慶子…(36)
めだか随筆—私のメモノートより……………	白杵田穂…(37)
研究会に想いをはせて……………	山村きよ…(40)
幼児のうたの作曲について……………	小林つや江…(44)
人間の遺伝について(2)……………	太田次郎…(51)
幼児の心理療法(二)……………	玉井収介…(56)
いさむちゃん……………	桜田佐…(60)
☆表紙絵のこと……………	黒崎義介…(39)



# 教 育 者 の 課 題

蠟 山 政 道

この頃の新聞を見てみると、教育界は非常に混乱しているようにみうけられる。一方では勤務評定のことでもストライキをする。他方では熱心に研究会を開いて、教育実践者の問題について真剣に研究している。この二つの事実は互いに矛盾しているようにみえるが、簡単には説明できない。そればかりではなく、学校の内部で校長と教師との関係、教育者とPTAとの関係、また社会との関係にもいろいろ異状な状態が現れている。この不幸な混乱状態は、どこに原因があるのだろうか。これを、どういうふうにかえるべきか。また、この解決はどこにあるのか。これらの問題について、たとえ満足な解答を得られなくても、私たち教育にたずさわる者は十分に考えなければならぬ。そこで私は、教育実践者の課題とし

て二つの事柄を主にとりあげてみたい。

教育実践者すなわち教師の仕事の性質はどういうものであろうか。これに対する解釈はいろいろあるが、二つの大事な点があると思う。その一つは、教師の仕事、いわゆる教育の実践は、人間がおこなっているさまざまな仕事の中で最も知的な仕事である、ということである。人間の知能を働かせて、人間を育てるということは、高度の知的努力を必要とするのではないだろうか。このために、教育学という極めて複雑な、広範囲にわたる学問の体系が発達したのである。

他のもう一つ、より大事なことは、教師の仕事が他の仕事と同じように、その仕事がいわゆる作業を通じて評価されるということである。しかし、この場合、作業の結果を通じて



のみ評価されるのなら、例えば大工や左官と何ら変るところはない。しかし、教師の仕事が作業を通じて評価される場合には、他の作業と異なる一つの特色をもっている。それは、教師の仕事が自由な職業、すなわちプロフェッションであるということである。昔からプロフェッションは人間の最も大切なもの、すなわち生命に関する仕事から次第に発達した。ちなみに文明史についてみると、最初に聖職として認められ、尊ばれたのは、人間の生命と最も関係の深い死を対象とする宗教家であった。そして次には医者であったが、医者もやはり人間の生命に関する仕事である。次には法律家であるが、その対象となる問題の多くは人間相互の関係である。そして更に、弁護士や裁判官が出来た。このように、人間の生活にとって最も大事な生命とか生活に関するものから次第に職業が生まれてきたのである。そしてこれらは、その仕事を通じて、仕事の性質そのものの意義を主張するプロフェッションを形成したのである。したがって、物資の売買などの形式によって生活のための収入を得る仕事とは区別される。教育もやはり一種のプロフェッションとして次第に発達したものである。単に生活の資を得るために教育して収入を得るというため

はなく、何か別のものをもたねばならない。

では、教師がもっている別のものとは何であろうか。もちろん今日の状態では、医者も法律家も、生活のために仕事をしているという見方もできる。だから、およそ世の中の仕事に性質の区別があるという見方は古いのだ、教師もまた労働者なのだ、という考え方も生まれてきた。こうなると、工場労働者も教師もみな同じであり、教師の誇りも自覚もいろいろに変わってくる。そしてここからいろいろな実際問題が起ってくるのである。

さて、さきに私は、教師の特性の第一として、教師の仕事は種々の仕事の中で最も知的な仕事であると言った。知的と言えば、技師もまた科学的知性を必要とする。どんな手先の仕事にも同じ知的な面を必要とするから、教師が知的であると言っても程度の差にすぎない。それ故、これは教育のみの特性であるとは言えないし、尊い仕事であるとも考えられなくなっている。だが、しかし、教師の仕事に特色がなくなっていくところに問題があると思う。また、教師自身も自分の仕事について深く考えていないことも問題である。教師のあり方は現在のままでよいのか。『しかたがないから教師に、で

もなろうか』または『教師に、しかねるものがないよ』というでも、しか教師が今は非常に多い、と世間では評価している。世間が客観的にみてこう言うからには理由がある。もちろん、これに対して憤慨している教師もいるが、でも、しか教師が多いと世間が認めるようでは、やはり教師自ら自分の仕事に対する自覚や誇りがうすれているのではないだろうか。

このような点から、おそらく現在の種々の教育界の問題が起ってきているのではないかと思うのである。

次に、第二の特性について考えられることは、もしプロフセッションであるならば、そこには職業倫理があるはずであるということである。勤務評定に反対し、これを阻止する運動をする、その理論的根拠がどこにあるのだろうか。「このような勤務評定を実施されては、教師の質がおちて秩序が乱れ、ひいては子どものために悪い。だから、われわれは子どもたちのために、一時授業を放棄しても反対運動をしなければならぬ」というのであれば、それは職業倫理の立場から考慮しなければならぬ。しかし、授業を放棄することが子どもたちのためであるのか。職業倫理から、という根拠が

あるのか。教師も俸給所得者である以上、労働組合の組織をもとにして団体交渉をし、ストライキをすることは、教師の生活の保障という意味で、子どもたちのためということになると、一応認められはするが、教育は他の労働と根本的に違うプロフセッションであることを知らねばならない。

一般の企業は利潤の追求を目的とする。だからそれにたずさわる労働者も、当然その利潤のわけまえを与えられるし、組合運動も経済上の問題として片づく。しかし教育は企業ではない。教育に要するお金は租税から支払われる。私的な場合にも商いの資本ではなく、自分の子どもを教育したいという父兄の支払う授業料や寄付金によっているのである。このように、各々に使われるお金の性質が根本的に違っている。

教育においては、企業において認められるように、利潤・財産などによってその成果をはかることは出来ない。企業においては、労働者は自らの俸給・賃金として当然うけとるべき金額を団体交渉によってかちとるが、教育においてはその賃金にも制限が出てくる。それが生活にたえられないような低い賃金であるので、安んじて教育が出来ないというのであれば、それは教育施設者の責任として改められねばならぬ。こ



のようなきは、団体交渉その他適当な方法によって労働条件や賃金問題を改善してもらふことも許される。しかし、ストライキによって政治的圧力を加えることが許されるだろうか。教師は生活のために仕事をしているのではない。プロフェッショナルな仕事であるという自覚が必要であり、また一定の職業倫理が必要である。そしてこの倫理の根本には、子どもに対する教師の愛がある。

この考えにたつとときに、私たちは勤務評定の争いが一体どんな原因でおこるのかと疑われるのである。この衝突は、職業の倫理が確立していないとき、職業に対する自覚がないとき、学校内部の管理と組織がうまくいっていないとき、また政治的社会的情勢に影響されるときに、逆に法律制度として勤務評定という行政的管理制度が出てきたのだと考えられる。

日本では「管理」ということばにまだ十分な理解がないので、誤解を招きやすい。「管理」ということばには官僚統制または監督という古いかけがある。「管理」には封建的な過去の連想があるので、「人事管理」ということばで過去の官僚的支配が復活するのではないかという危惧の念を抱かせる。

また、国民の代表である国会を基礎とする内閣が、管理制度を昔の制度に変えるのではないか、という心配、このような不幸な心理的条件をもっているが故に、「人事管理」というものが当然もっている合理的な機能的意味が理解されない。「管理」とは人間が力を合わせて仕事をする協力組織のためのものである。すでに外国ではこれがたいへん効果的にとりいれられていて、人間関係を基礎として、組織の運営を良くするために役立っている。「人事管理」とは、人間関係を無視してはなりたたないものである。ところが日本では「管理」が外国のような効果的・合理的な組織になっていないところが問題がある。「管理とは法律にしばられて人間性を無視し、圧迫するものである」というようにうけとられる。そうすると、これに対して反抗し、反撥するのは当然である。最近日本でも産業経営の方面で、人間関係を基礎として、これを合理的におこなわねばならぬという要求が出てきた。すなわち、能率のよい経営をおこなうために人事管理がおこなわれるような方法や様式が期待されている。ところが教育界では未だこれをうけいれる用意の出来ていないところへ政治的に勤務評定が現れたのである。だが、がんらいこれは政治的に

とりあぐべき問題ではなく、また上から文部省の指令でおこなうべき問題でもないと思う。これは本来、まず家庭、職場および学校において自覚的にとりあげられるべき問題であり、また教師自体が自発的に解決すべき問題である。学校自体の組織を一つの協力組織にするためには何が必要だろうか、というところから出発すべき問題なのであって、法令をつくるのはその後の問題である。ところが、突如として法律が作られるからその意図について猜疑心が起り、反抗が起るのである。

しかし、私たち教育者は、法律が定められた以上はその制度の内容を検討し、改むべきものは改め、また実施に必要なことならについて真剣に考えねばならない。これを実施するためには、管理者として非常に苦心が必要である。勤務評定は俸給に関係があるとか、昇級や免職に影響するであろうが、そういう人事行政上の資料また手段とする場合は、教育と教育者のためでなければならぬ。

勤務評定はまず第一に、ひとりひとりの教育者の利益のためにおこなわれることが必要である。人事管理がこの方向に向いておこなわれるならば反対する理由はない。私たちは必ずしも自分自身を知らない。教師としての長所と短所を自覚

することはあたりまえのことではなからうか。本人の欠陥を、本人のために評定することによって、本人が励み、改めて、よい結果を出すかもしれない。だから何も秘密にする必要はない。勤務評定はこのように教育的に使われるべきである。

第二に、校長も教師も職場で働くときは一しよであるから、互に力になり励まし合うような信頼関係が必要である。校長は教師の長所・短所を教えるべきである。評定を秘密にすることによって、評定の結果がわからないので、不安にかけられ、追従の傾向が生まれる、というような理由で反対する人があるが、これは当らない。欠点を直すように言い合い、努力することは当然であり、校長でなくても普通の人間としてすべきことである。

第三に、校長も人間であるのに、ひとり人間関係を正しく判断できるだろうか、ということが問題である。教育は知的な仕事であって、金銭や物質では測れない仕事であるから、教師が休んだとか机の前に坐っていないからと言って、必ずしも怠けているとは言えない。ひとりの人間の好悪や主観的判断によって人を評価したものに、信頼がおかれるわけではない。それ故、校長がひとりで評定することはよくない。



ひとりの評定しなければならぬとは、あまりにも行政的な考  
えすぎである。

要するに、本人が良くなり、教育が正しく効果的におこな  
われればよいという目的を適正に果すことがこの制度の目的  
であり、免職というようなことは一番最後の問題なのである。

人事管理を誤解させないようにすることが必要である。こ  
の誤解を招いたのは、政府、行政官庁に手落ちがあるが、今  
からでも遅くはない。何が問題かということ職場で解決す  
ることが大切である。教育者が大騒ぎをすることは子どもの  
両親や世間の考えや職業倫理に適合しない。教師は自分の仕  
事をよく考えて、職場での人間関係の解決にまず努力すべき  
である。教育はひとりではできない。また親子・家庭の間だ  
けで処理できるものではない。教育は社会的プロセスの問題  
であり、集団の間でおこなわれる。そこに政治の力も入って  
くるので、人間の教育をめぐって社会的争いや政治的紛争が  
起りやすいのである。このとき、教育は逆に政治の欠陥を補  
っていかねばならぬ。争うならこの立場で争いたい。本日の  
教育界では、この場合、思想的・哲学的な対立やイデオロギー  
的争いが起るのである。そしてこれをめぐってその対立を

深めれば深めるほど、両者は対立していく。思想によって片  
づけることが出来ないからと言って、がんらい思想が教育に  
役立たないのではない。これは人間そのものを深めていくの  
に役立っているのである。しかし、実践者としては、思想で  
わりきれぬものを毎日実践していくところに意味がある。

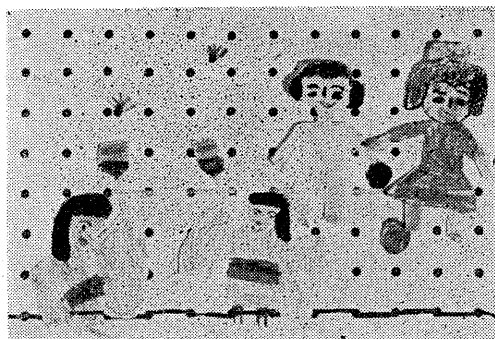
解決はもっと実践的におこなわれなければならない。多数  
の人の中には、いろいろと違う意見があつてそのままでは一  
致はえられず、不統一である。これを統一するためには話し  
合つてみるが必要であり、これが実践生活である。社会  
の程度が高ければ高いほど、さまざまな問題が出てくるもの  
である。しかし、社会の下の方で広く話し合う集団があれば、  
上の方にどんな問題があろうとも、びくともしない社会が出  
来る。国会や官庁や、全国大会で争うのはあたりまえである  
が、小社会や小集団で、話し合いにより楽しくやつていける  
ならば、根本は何ら動揺しない社会が出来るのである。自分  
自身の周囲の、身近な社会からよくしていこうという努力が  
必要だと思ふ。

以上、大きな問題をとりにあげたが、感じていることを率直  
に述べた次第である。

(お茶の水女子大学長)

# 穴あきボードの遊び

及川 ふみ



子どものものを通しての表現活動の遊びを観察していると、ある場合はすでに経験ずみのものをくりかえしくりかえし使って遊んでいることもあれば、またある場合には、

新しい材料すなわち新しく変化のあるものに対して刺激を受けることによって興味をひきおこし、表現活動が始められるときもある。

これは、幼稚園や保育園で

の子どもの遊びのうちによく見られる姿であって、砂場の遊びや、ままごと遊びなどは、いつの時期においても、くりかえしくりかえし興味深く遊びつづけられている。ただそこには、遊びの深さや幅について、それぞれの年齢や発達の程度によって差異のみられることはいうまでもない。

そこでくりかえしくりかえしその材料を通しての遊びがつつげられている場合に、その指導の面について、さまざまの方向からこれを観察して、その後の遊びの発展に役立つ資料をつかみとることをおこたってはならない。

子どもが最も興味をもって遊ぶ砂遊びの場についても、子どもの次第に成長する面を考慮して、遊びの仲間の数、あるいはその用具の種類や数量などの点からいつも同じ状態であってはならないので



あって、子どもの成長に対しての適当な環境をととのえておくことはいうまでもない。観察によってつかみとったものからあるいは新しい用具をさらに加えるとか、あるいは興味も薄れたものを取りさつて整理してみるとかなどしつづつ、教育内容の指導目標に近づけることができるのであろう。

またままと遊びの場においても、三才より五才までの年齢の差とかあるいはその子どもの集団生活の経験の長短などによって、そこに展開されていくままと遊びの状態を予測して、おもちゃが準備され用意されていなければならないのであるが、これの配慮が比較的なおざりにされて、みのがされている場合が多いのではなからうか。

子どもの遊びの指導について、在来遊びや、それにとまなう資材や、用具などの年ながく使い続けられているものは、その遊びなり、用具資材なりが子どもの間にも興味がつづけられ、また一方指導する方の側からも適当なものとしてつづけさせているということである。

しかし、ここで子どもの指導的立場におかれているものとして考えなければならぬのは、これらの遊びや、資材や用具に対して手ばなしの状態であつてはならないということである。子どもの自由遊びが手放しにされる危険性の多いものであると同様に、この点

についての反省や工夫が考えられていくべきものである。

子どもに新しく与えられる資材について、おとなの期待されるものの生じる場合もあり、また反対に全然予測されない結果をみることもある。むしろ子どもなりに工夫されたものがみられることによる喜びを大いに感じたいものである。

男児のよろこんでする木工遊びの場合のなかでのことであつたが、新築家屋の工場から大きささまさまの木切れを買い求めて与えた時に、汽車、電車、自動車などと、きわめて簡単なものではあるがいろいろの乗物がつくられるのが多かつた。これは教師側の期待にもそつて、あるものは長すぎる部分を取り去ることに手伝いを求められたり、またあるものは別にこれにつけたすことを注文されたりなどして、いくつかの作品ができあがつたのである。そのうち一人の子どもは敷居の端し切れの凹凸をそのままいろいろと工夫した結果、凹形を二つずつ上下に組み合せて釘でうちつけ、ビルディングといつて得意であつた。これなどおとなが全然予測していないものがつくられて子どもの考え方に感心させられてうれしい場面であつた。こんな場合にぶつかるときに、新しい材料を見つけたして子どもにも与え、そこに子どもの工夫がもたれるということにおとなの大きな役割のあることが痛感させられるのである。

新しい資材を見つけて出すにあつては、そこにはいくつかの条件

がともなってくる。すなわち

- ・子どもの発達に適切なものであるかどうかということ
- ・素材として子どもが工夫のできるものであるかどうか
- ・保健、衛生の点で適当なものであるか

・資材としてしばしば子どもに与えられるものであるかという費用の点はどうであるか

などの諸点があげられてくる。

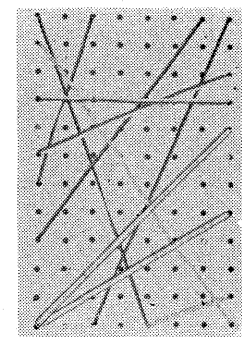
この特点を考えつつ、子どもに与える資材については常に一応の注意をむけているものであるが、たまたま一つの試みについて材料を得たので、ここでその一たんを紹介することにした。

#### 穴あきボードの試用について

近代建築の資材として多く使用されている穴あきボードは、保温や防音などについての長所をとり入れられて、天井、壁面に張られているものである。これを幼稚園でも用いてみて、子どもの作品の展示板としてみた。

また、この穴あきボードのほかに、新しい台所で用いられているハンガーボードは、狭い壁面を広く使い、しかも必要に応じてものをかける位置を移行させることの便利な点などがかわれて利用

の面が多いものである。



この穴あきボード、ハンガーボードのそれぞれの長所を幼稚園の用具としてとり入れて、こころみでから約一か年ほど経

過したのであるが、その間にこれらのものを単に子どもの作品の展示用のみに使用するのではなく、子どもの作品そのものの材料としてとりあげてみることを思いついたのである。

しかし展示用の黒板大のものでは一人ずつの子どもの材料として使うのには、始めはいろいろの点で不便である。また一人ひとりの子どもの使う材料という点からとりあげるならば、どのようなものがよいかということも考えられなくてはならない。穴あきには、テックス・ベニヤ板 プラスチックなどさまざまあつて、それぞれの用途によって選択されている。

一応これらのいろいろの種類のを集めて使ってはみたが、いづれもそのままのものでは子どもの使う材料としては適当でないということがわかった。ことに費用の点では、最も大きくぶつかるのであった。

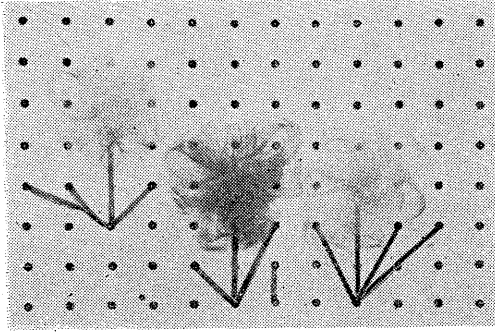
そこで子どもが使うに使いやすい白ボール紙を材料としてこれに



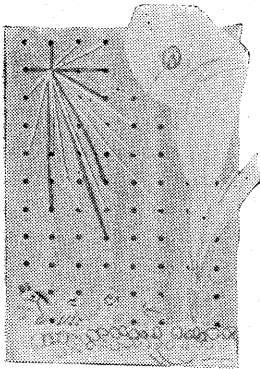
穴をあけることにした。そこで一人用のボール紙の大きさを縦二六センチ 横三六センチと定めてみた。

次に穴の大きさであるが、これにも適度があるので、直径〇・五センチの穴をあけた。また穴と穴との間隔は、これも考えた結果三センチとした。これでボール紙の全面に九六の穴があくことになった。

一枚のボール紙の大きさ、穴の大きさ、穴と穴との間隔などを一  
通り決めるまでにはさまざまに試作をつづけたものである。方眼に



線を引きこれに適當の間隔に穴をあけることはなかなか手数がかかったが、これに協力者のよき周囲の人を得たことであつた。



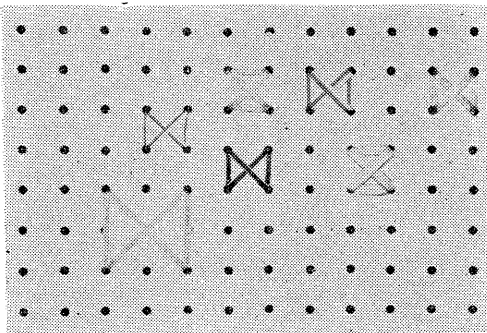
かたわらで自分も一人前の台紙をとつて仲間入りをした。はじめは最も簡単なやり方で、一穴ずつ出したり入

この板の穴をいかにつかつて遊ぶかについて用意したものは、紙テープ シデ紐 リボン 模造紙 画用紙 自然物の草木の茎や葉  
その他のものであつた。

使用した最初の様子をいってみると、男女児それぞれ二人ずつに台紙の穴あきボードを各自に一枚ずつ用意し、この四人のグループに紐や、紙その他のものを入れた箱を準備した。

「これで何でもして遊んでみましょう」

ということからはじめ、



れたりしてみた。

子どものうちには  
穴のあちこちに紐  
を出してみよう  
こんでいるのもあ  
れば、紐が長くて  
からんでこまっ  
ているものもでき  
ました。

いろいろの子ど  
もをかわるがわる  
集めてやっている

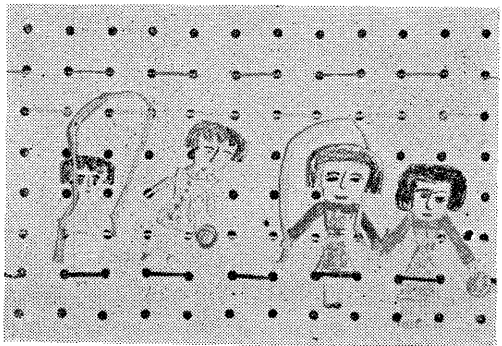
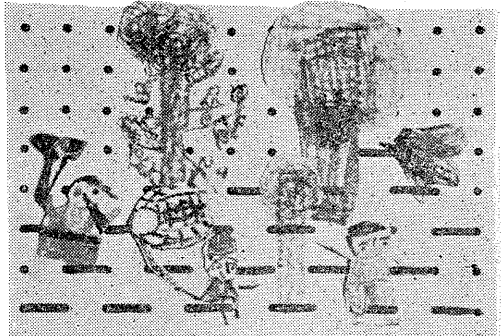
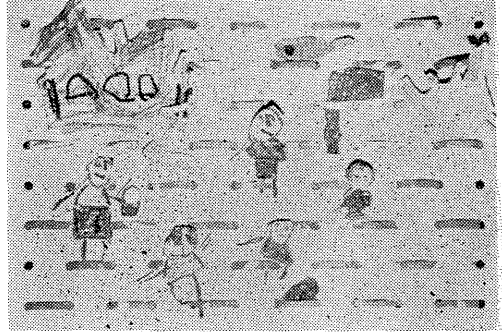
うちに、大体次のことがわかってきた。

- ・一穴ずつ縫うような形
- ・一つの穴から、上下、左右、斜めという方向に四方八方に紐を出す形

・必要に応じて紐を長く引いて適當の場所で穴におさめる

・点(穴)と点をつなげて自分の考えた形をつくっていく

こんな種類の基本的なものが、子どもと一しょに材料をいじっている間につかみとることができた。



なお穴と紐との遊びからさらに進んでいくことをこころみた。

一穴ずつに紐を通してできたものを海として、それから海水浴遊

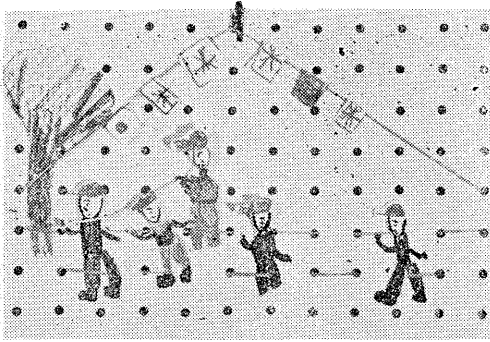
びを作ってみることに展開させてみた。画用紙に海水浴をしている

幾人もの子どもをかき、それを切りぬいて、海の紐にさしはさむ。

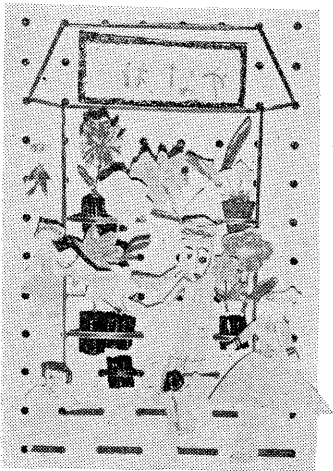
浮き輪をかついでいるものもあれば、お魚をおいかけている子ども  
もできてくる。そのうちに竜宮城もつくられるというように子ども  
のもっている海からのいろいろのものがそこに作られていった。そ  
してさしはさんだものを適宜に動かすことよってつくったもので

遊ぶことができるという一つの長所もみつかった。つまり遊びつつくる、あるいはつくりつつ遊ぶという、子どものものをつくる自然のすがたでいけるのである。

また別のものは一穴ずつ紐によって縫われたものが野原となる。その野原に、画用紙でつくられた木が植えられ、木には蟬がとまっている。子どもが虫とりあみをうちふって蟬とりをしている場面がつくられていく。これも蟬がとんで他の木に移ったり、子どもが追いかけて紐をうつつしていったりして遊んでいるのである。



上の写真は運動会のかけっこの場である。かけている子どもの様子は、海水浴や蟬とりの場と同じである



が、運動場の飾りの万国旗のつけ方は、また異なったやり方を考え出しているのが見られておもしろい。また花火の季節のものとして、大きな花火を一つの穴から四方八方に紐を出したのに対して子どもはその下に、花火見物の場をつくっている。

必要に応じて線をつくっての遊びもいろいろのものがある。動物をつくってにおいてあとから商品をつくることもあるし、お店をつくってにおいてあとから商品をつくってならべてみることもできる。穴に通すもの、穴にさすものいつでも紐にかぎられたわけではない。いろいろの形に紙を切って穴にさしこんで、花をつくってみたり木を植えてみることもできる。いままで作ったものを一つひとつあげることもできないが、大体五才児を対象にいろいろのものがつくられ、遊ばれたのである。

しかしもっと広い範囲にこの穴あきボードが使われて、子どものよき遊び相手になることを期待している。ささやかな材料の試みとしてあまりに望みが多すぎるかとも思われるが、たくさんの子どもたちにこの穴あきボードがよるこんで使われることを願っている。

# 新年の抱負を語る



田中阿い

新しい年を迎えてまず、今年こそはとねがうことは、いつもいくつがある。けれども、本年ほど喜びにみちて迎える年も、近頃珍しいことである。昭和二八年就任以来の念願だった子どもたちの広い部屋が、年のくれに出来上ったから……。

四〇〇名もの子どもたちが生活する園舎の中に、いつもつかえる広い部屋を一つももっていない悩みを、何かにつけて、いやというほど味わってきてみると、その待望の部屋が出来上った喜びは、表現出来ないくらい大きいものであっていいわけである。

ではその広い部屋で私は、子どもたちがどんなふうに住生活してくれることを願っているのだろうか。子どもたちだけではない。私は幼稚園時代は特にお母さんたちとも仲よくいろいろな問題について話しあったり、しらべあったりすることがたいへん重要であるといつも考えていたので、その広い部屋につづいてお母さんの部屋もつ

くってもらったのである。その部屋のもつ意義、これも私の語りた抱負の一つでもあるのですが……。

まず子どもたちの広間、その広さは、出来ればもう少し広くしたかったけれど、敷地や経費の関係で七間・一〇間の七〇坪にとどめた木造平屋建です。この広い部屋に、ステージはどうしたらよいかと、いろいろ考えぬいて、出来るだけゆったりした全面階段のステージをえらんだ。大勢で集ってお話をしあう時、やはり必要だと考えたからです。

甘えっ子でみんなの前でお話の出来ない子どもたち、恥ずかしがりやで、いつも人の後にかくれるようにしている女の子などみるにつけてこの広い部屋のあのステージに上って堂々と両手をあげて大きく深呼吸をさせてやりたい。そうしてはじめはおずおずしていることであろうが、次第に自信をもって、だれに顔をみられても平気

で話の出来る子にしてやりたい。お友だちと手をつないで、歌をうたったり、大きなベープサートを持って話をさせてやりたい。その機会を数多くして、何でもお話の出来るように、それからそんなお友だちのお話を、楽しくきけるようにさせてやりたい。「聞く」ということ。これはいつもNHK朝のお話出てこいの時間、年少の組も楽しくきけるようになっていことは自分でも驚いているほどで、担当の教師たちの努力がしのばれて、いつも心から嬉しく思っているし、生き生きとした反応が思い思いの様子で全園にただよってくるのをみての感想では、幼児としては上々と思うくらいである。

これをこんどは、少し下手な状態になるかもしれない仲間同志の発表もきいてあげられるように、そんな機会の部屋につかってもらいたいと考えている。誕生会も今までは、小学校の講堂をかりて一斉に全員でおこなっていて、おいろいろの演出もクラス当番なので、一年に一回位しか順番がまわってこない。これをクラス単位にしたらもっともっと大勢の子どもたちが話合う機会を得られるのではないかと考える。

お話の先生に、そろっていつでもお話をきくことが出来ること、これも大きな喜びで、このいつでもつかえる、という楽しさは、何ものにもたとえようがない。

それからリズム遊びの場が出来たこと。これも大きな喜びの一つで、今までのように、静かだった園舎が急にがたと音がして、

小さい手で大きな机をよいしょよいしょと廊下に出す不便さは一切解消してしまったこと、でも一度に全員ということも出来ないの得上手に話しあって仲よく使ってもらうように運営していきたい。せまい部屋の中でのリズム遊びでは、手を前にふって耳の痛いお友だちの耳をいためてしまつて一しょに泣き出すようなこともあったし、まさかり、とかついであげた手が後の子とはちあわせしてけんかにもなったことなどふりかえてみると、思う存分曲にあわせて飛びまわることの出来る場であれば、子どもの自由表現もののびのびとして健康に育つことであろう。

いつか文京第一の山村先生にリズムのあそびをしていただいた折にも、会場に借りた小学校の講堂での動きが、のびのびとしくかた。先生が広やかに、たのしくとききりに助言して下さったのに、まん中や片すみに、小さなかたまりになってしまふ。こんなことも自分の広い部屋で、いつものびのびと遊んでいるうちに解消してしまふことの一つであろう。とにかく園の生活の中でのリズムあそびの分野はまだまだひらかれなければいけないと思つている。

これは私共の課題として、今年には十分に研究しあつていきたい。ピアノをひくこと、レコードやその他のものを活用することなど、研究したいことが次々と出現してくる。広い部屋があつたら、こんなことも出来るのに、あんなこともするのにな、夢にえがいたことの一つ一つを、今年からはお互にはげましあつて実現し、子どもた



ちの楽しい生活の場としたい。大勢で楽しい絵画製作も出来ることであろう。集団行動ばかりではない。朝の自由あそびも、せまい部屋の中の積木で空間の少ないままにのびのびと遊べなかったものもみんなで十分楽しめるようになるし、おかたづけを急がなくてもいいし、もう少し遊ばせたいと思う遊びの場を次の仕事のためにとりかたづけた保育室での自由あそびの場も、今年からはずっと好ましい状態になることであろう。広い部屋についての構造とか設備の状態などは紙面の関係で紹介出来ないし、実際に生活してみないとその楽しさもいきれないので、また次の場合にゆずりたいと思う。

次に私の念願したお母さんの部屋のことにふれたいと思う。

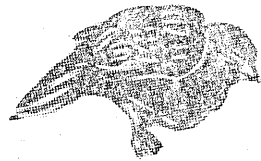
前にものべたように、幼稚園時代の教育はその両親やとりまく家族の人々との協力が多く望まれることは、容易にうなずかれることですが、さて実際には、どうであろうか。幼児をもつ若い母親たちが案外私たちの失望するような生活をしていることがあったり、幾人もの子どもを育てたベテランのお母さんが、思いがけないまずい環境をつくり出したりして教師のねがいに遂行していることなどにぶつかると、これはどうしてももっとと近い立場で知りあわねばならないと思われる。そのような場をもってこそ、子どもたちのために幸いな生活がつくられていけるのだと考えたときに、その語りあい知りあう時間、場所などが問題になってくる。母親との話しあいの中で園長のなさねばならぬ部面も多いし、また子どもた

ちの保育中にお互が勉強出来る時間を持ちあうためにも、私はお母さんの部屋がほしかったのです。私共のお母さんの部屋は、広間につづいて十坪の平屋建和室で、十四帖の畳敷です。そなえつけの書棚もつくったので、ここにはお母さんたちのために、よみものをそなえたい。昨年もとめたテレビもここにおいて、(子どもたちにも楽しく見せたい)。いろいろ話しあいの場にしたい。きらくな心持で幼稚園をたずねて子どもの問題を話しあったり、実際に悩みもちあったりして少しずつ解明していけたら、どんなに楽しいことだろう。日本の母親は、自分の子どもの事ばかりしか考えられないのではないかとさえいわれるせまくるしい家族主義から脱却して、クラス同志、近所同志の協力が出来て、みんなで大勢がいい環境のびてゆけるように心を寄せあうことが出来たら、どんなに楽しいことだろう。語りつかれた時には、お茶もわくいこいの設備もしてあるので、この部屋はきつとお母さんたちの意義深い部屋になってくれることと期待している。

この二つの部屋をつくり上げて、今私の心を去来する深い思いは、子らの幸いのために常に願うこと。たゆみなく努めることだなどとうこと。この二つの部屋をつくることに協力下さった長い間の多くの善意のかたがたに謝すると共に、この部屋のもつ使命を完了することこそ私の今後の務めであることを深く心にしるして、新しい年を楽しく歩みたい。

(静岡・市立安東幼稚園長)

# 私の抱負



浅沼登

ひなぎく幼稚園は昭和三一年一月に開園し、昨年学校法人にしました。本年は創立四年目を迎えますので、新年にあたり心を新たに、経営に、保育に、一層の努力を誓いたいと思います。

## 一、環境、設備に対する私の考え

東京大学の良さは、あの大銀杏並木にあるのではないでしょう。あの道を歩くことの光栄と誇りとが、幾多の人材を輩出したのだと言っても、決して過言ではないでしょう。武蔵野音楽大学に一步足を踏み入れた時、ロビー、食堂、教室などの美しいことは驚くばかりで、自ずと心が浄化される感じがいたします。教育は人格の向上、品性の陶冶が第一であるという学長福井先生のお考えから設計されたものです。

大学ですらそうです。ましてや幼稚園においては、よい環境、美

しく明るい園舎、広い運動場、良い設備などが完備しているならば、幼稚園の保育はそれだけで九分通り成功していると考えてさしつかえないと、私は堅く信じています。これらが甚だしく不備の場合、いくら、もっともらしい理屈を言ってみても、保育の効果はある限度を越えることはむずかしいと思います。眼に見えない偉大な影響力が貧弱になってしまふことは、教育の場としてその資格がないと思います。したがって経営者として、私はそれらの点に最大の努力を続けております。その成果は未だ公表するまでにいたっておりませんが、概略次の通りです。

敷地は三〇五坪ですが周囲の環境はまことに恵まれています。園舎は一二〇坪、品格があつて落ちつきがあり、しかも幼児が親しめるようにと、ずいぶん考えたつもりです。特に近代的に、通風採光、色彩、ならびに衛生に極力留意いたしました。

便所は浄化槽を設け水洗としましたが、日本人の習慣上から特に保育室内を避けて設計しました。机、椅子はパイプ製で広く丈夫で軽いものです。用具入れはすべて引出しにせず、中が見えるように棚にしました。飾り棚、グリーンボード、黒板などは出来るだけ多く設け、手洗場も多くしました。

### 二、教諭および一学級幼児数に対する私の考え

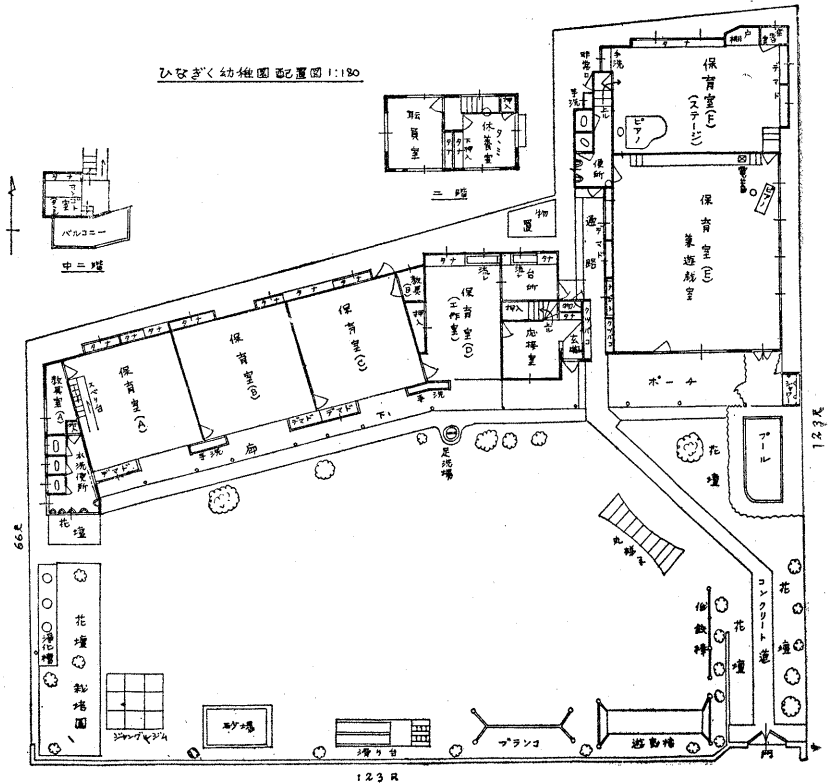
良い設備を一〇〇パーセント活用していただくのは先生ですから、私は極力良い先生を選びます。

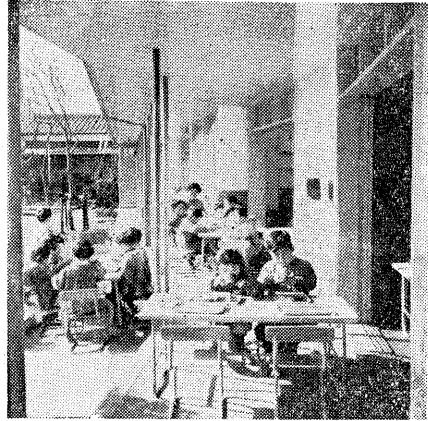
一学級の人員は二五名を標準として保育室の設備をしました。

現在は二二―二七名です。但し三年保育児は一五名です。一学級を四〇名にもするのは、たとえ助手をつけたとしても、私はよくないと思います。現在五学級一二三名に対し、有資格教員六名と事務員一名を配置しております。

### 三、保育に対する私の考え

本園の保育標語は「はりきっていつもここに元





暖かい廊下でおべんとう

気な子」というのです。言いかえれば健康、善良、闊志ということ。環境をよくして、上品な正しい善良な性格を養成するこ

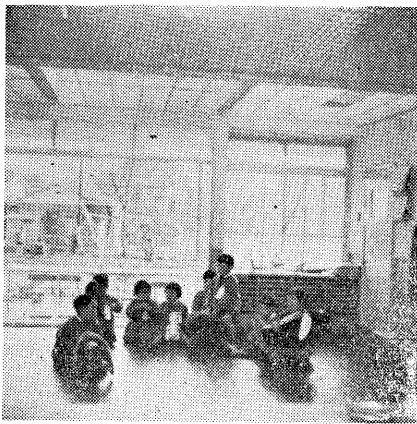
とはもちろん、特に私は健康すなわち発育に重点をおいています。それ故、園舎は南向きで運動場と直結して開放的にし、東西に長く設計されています。幸に北は小高く、夏は涼しく冬は暖かです。プールも出来ましたが、遊具、特に遊戯室内の体育施設が無いので、今年に設備する予定です。

更にそれに加えて闊志ということを強調しています。世の中は闊志だと思えます。その人の天性のいかにかかわらず、闊志さえあれば、必ずその人は何事かを成しとげ得るものであると私は深く信じております。意気地のない人には決してたくないと思えます。

#### 四、幼稚園と小学校との関連に対する私の考え

「幼稚園はものを教えるところではない。自然に覚えるところである」このことには私も全く同感で大賛成です。しかし幼稚園の先生の中には、自然に覚えるにしても何にしても、覚えさせることに努力しない人があります。私はものを感じさせたり、考えさせたり、覚えさせたりすることは、おおいにやらなければいけないと思います。ただ問題はその方法にあるのです。

自然に、おもしろく、不知不識の間に知識、技能を会得するように、



ルーバーのある明るい保育室

その設備、方法を研究すべきだと思います。押さえてはいけないと思えます。一年も二年も保育するのですから、数だっ

て百位まで覚えたとしてよからうし、ひらがなの読み書きを全部確実に覚えたって差しつかえないでしょう。現代の子どもと昔の子どもとはすべての環境が違います。早く発達したとて不思議はありません。近代科学の進歩は早期教育を要求し、天才の出現を待っているのです。

ある有名な幼稚園を参観したところ、幼児の製作品が並んでおりました。まずその出来ばえの巧みなことに驚きました。ところが更に驚いたことは、それらが見分けのつかないほど一定して全然同じなのです。このような保育だけは決してしたくないと思います。



園 舎 南 面

#### 五、科学教育に対する私の考え

科学教育、私は本年このことを特に研究してみたいと思います。昨秋ソ連のイシコフ漁業相が浦和の常盤小学校に来てまず「工業室はどこですか」と聞いたとのことです。この一事からもソ連の今日在る所以がわかると思っています。

本園では最初から工作室を設計して、自由に製作が出来るようにしたのでしたが、残念ながら現在は保育室が不足していますので、三年保育児の室にあてています。やむを得ないので各室の観覧欄を利用しておりますが、本年は是非科学教育用具を工夫したいと思いきっています。

#### 六、私の夢

理想的に近い幼稚園を経営しようという私の考えは、徐々にあります。更に隣接地二〇〇坪を買収して、運動場の拡張、園舎増築、庭園を作り池や彫刻を配するなど、一步一步私の理想に近づきたい。

そうしてここで育った子どもたちが、将来ひなぎく幼稚園を思い出した時、美しい園舎、たのしかった運動場、親切だった先生などがなつかしく美しいイメージとして臉に浮かぶようにしたいというのが私の夢です。

(埼玉・ひなぎく幼稚園理事長)

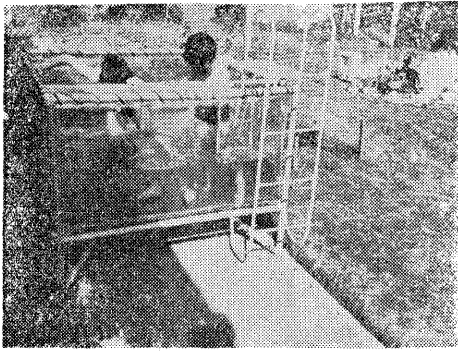


# 遊具の四季について

齋藤公子

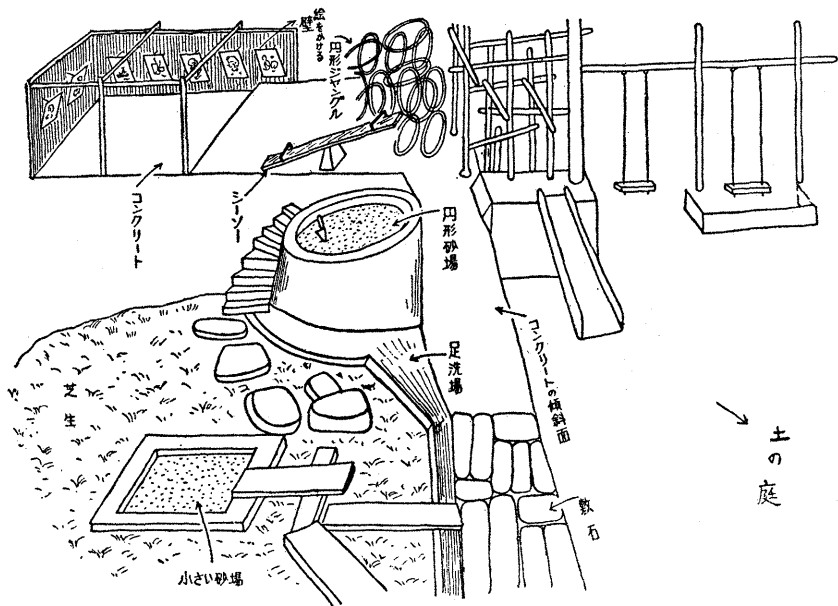
遊具の四季という題をいただいて、実のところたいへん困りました。もっとも夏には水槽など季節独特のものがあるわけですが、(現在園にあります水槽の写真をお日にかけます。これも以前八月号で

御紹介した丸いジャングルの作者由良玲吉氏の作で、ジャングルと一しょに七、八年前伊勢丹で開かれた仲間の展覧会に出品して、たいへん好評を得たものです。これは四尺四方の小さいものですけど、季節を過ぎた後は中のビニールの袋を取りはずしたままおいておきますと、結構小さい梯子を上り下りしたり、ふち



の鉄柵にぶらさがってひっくり返ったり、日だまりで良い遊具になっていきます。しかし現在ある遊具は大体四季を通して使われるようですし、現実には貧乏な、しかも狭い園で、まだまだそこまでは今のところ考える余裕がなかったのですが、この際改めて子どもの四季の遊びを考え直してみているわけです。

で、ここでもちょっと、遊具というこまかい一つ一つに入ってゆくに申し上げておきたいことがあるのです。それは五年前のことです。初めて深谷にきて、おとなの背が埋まる程の夏草を刈って庭として、砂をトラック一台運んで一隅においただけで幼稚園をはじめ、さてこれからどんな遊具を作っていこうかと、デザインを仲間の秋岡芳夫氏に依頼しました。すると現場を見ないと設計は出来なといったって、カメラマンを連れてきてくれました。そして半日じつと子どもたちの遊びや動きを、ただみておりました。それから私に、「この庭は外に向かってだんだん低くなっている。どうも子どもた



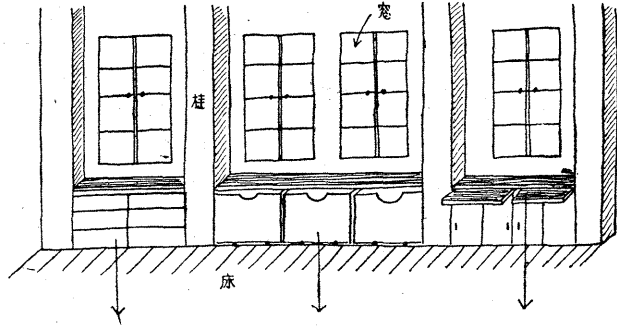
ちがこの広い庭を思う存分遊んでいないで、直ぐ部屋に帰ってきてしまう。なぜか考えてみたらこの庭の傾斜によるのだということがわかった。この庭をたのしく遊べるようにするために土を入れて高低をつけなくてはいけない」といって屋根に登って写真をとり、その写真を引き伸した上に上の図のような、庭の一隅の設計をしてくれたのです。私はこのことにたいへん感動し、いい勉強になりました。そういえば私の幼児期はもっぱら家の裏の小山にいて、足をかける穴を段々に掘って、上から綱をぶらさげて、つたわって登ってはすべり落ちるといふ遊びで終日をすごしていた記憶があります。いつもパンツを赤土だらけにしてきても少しもおこらず洗ってくれた母のいたことは、今から考えると何とありがたいことだったでしょうか。今でも私は広い庭に山がいくつもあって子どもたちがくぐれるようなトンネルがあいていて、それが迷路のようにくねくねと、あちこちにあいていたらどんなに一日たのしく遊べるかななどと、夢をえがいているのですが。

せっかく六百坪の土地に図のような設計をしてもらいましたが、事情で現在の狭い土地（約百八十坪）に移転したので今だ実現出来ずにおりますが、いつかは庭全体を立体的な構成にしてみたいと考えています。図の説明をもう少し詳しくしますと、庭の一番向こう側はやや高めのコンクリート台にして、向こうの塀の壁は思う

存分絵のかける壁面とし、左きわは屋外劇場になります。右のジャンクルは木のぼりのたのしきの再現です。そのコンクリート台からは、なだらかなすべり台で下の庭において来るようになっています。庭の右手にある円型の高い砂場は、ぐるぐるまわりの階段でのぼってゆくようになっていて、水を使って遊んでも水はけがよいように出来ています。砂場の下は足あらいが自然に出来るようになってきます。四角の小さい低い砂場は年少組のためのものです。

冬になりますと、天候にめぐまれた日などは、元気な子どもたちはすぐに庭にとび出してしまいますが、しかしなんといても室内で遊ぶ時の方が多くなってしまいます。それで室内での遊びに変化をつけ、もっとたのしいものにするために私が東京におりました時に考えて、やはり仲間の松本文郎氏に作ってもらいましたもの二・三、もう七・八年も前のことになりましたので新しいことではないかもしれませんが、御紹介してみます。

ただっ広いホールにあるものは大型の積木だけであった時、何か無駄な窓下の壁面を利用してみたいと思って、次の図のような工夫を試みました。



材料は全部ラワン  
この板は出し入れがきくようになっていて絵をかくとき、粘土のときなど利用します。すつかり引き出してしまえますから洗うことも出来ます。

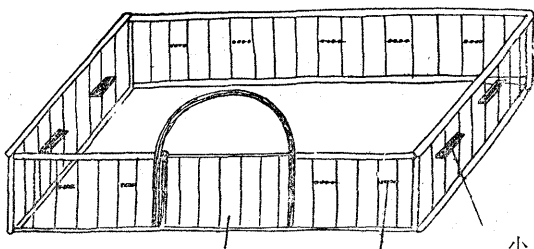
おもちゃ箱になったり小さい自動車になったり、これは最も子どもたちによろこばれました。  
色は赤、黄、緑など塗るとラワンの質感と共にすばらしい室内装飾になります。

壁面がひろがったのでいろいろな戸棚や引き出しに仕切り利用しました。

また移動図書館も一間ぐらいの大きいものを作ってみました。やはり材料はラワンを使いました。

男の子たちは大きな箱積木をどうしても部屋一杯広げて遊びはじ

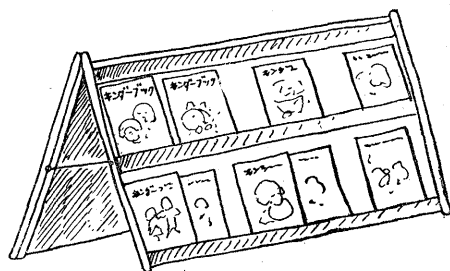
めるため、女の子たちが安心して遊べるコーナーが、ついでなくなってしまうので考えたのがままごとの棚です。大きさは部屋の大きさによりますが、一間半四方ぐらいの大き



小さい棚になっている。

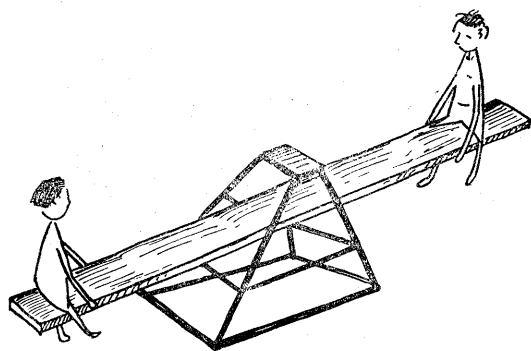
五色の玉が鉄棒に通してあって動かせる。

この門はあけたりしめたり出来るようにしている。



さで四面は組立てるように、遊び終れば隅に片づけられます。この中に適当に可愛い茶だんす、人形のベット、テーブル、椅子など、揃えて作りましたら、何とたのしそうにままごとをして遊んだことでしょう。この中だけは安全地帯で、小さい子ども安心してあそびました。

この他積木遊びを複雑にして喜ばれたものに、秋岡芳夫氏考案の、三角の梯子状の踏台というのでしょうか、図のようなものがあります。



これを二個以上作っておき、これに長くて厚い板が二三枚以上あると、これまたたいへん子どもの遊びを發展させてくれました。

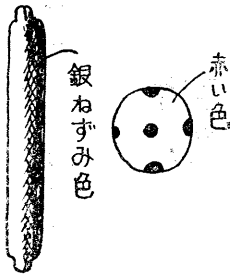
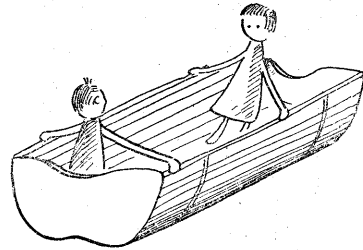
中に板を通して、ギッコン、バツタンにしてみました、一番上に並べて橋にしたり、これがままごとで階段になったり、たのしいもの

です。

この他今使って喜ばれているものに風間靖子氏製作のロッカーがあります。

二・三人一しょに乗って船のように左右にこいで遊んだり、ひっくりかえして寝台に使ったり、縦にして動物のおりにして入って喜んでいきます。布団を敷いて人形を寝かせ、ゆりかごに使っている子どももいます。

それからあまり成功した作品というわけにはゆきませんが、大きな組木と申しましょうか直径七、八センチの球の六方に穴があいていて長さ四十センチぐらいの棒を通していろいろな形を構成して遊ぶ遊具ですが、穴と棒の差し込みの細くなっているところの関係がぴったりとゆかず、きつ過ぎてた



たいて入れなくてはならなかったり、ゆるすぎて抜けてしまったのですが、このような完成をばむじれったさが、時折、先にした球をつけた棒をチャンバラのよい材料にしてしまったのには笑ってしまいました。このことによっても子どもたちがたのしんで何かをつくって遊んでいる時は戦争ごっこにならないということを考えさせられました。

それで私共の園では三才児から六才児に至るまで冬の日の日だまりの廊下で大きな木ぎれを切ったり釘を打ちつけたりして、自動車や船などつくってほとんど半日をすごすおとなが使う大きなのこぎり、金づちが一番好まれる遊具といえるのではないかななども考えてしまいます。

(埼玉・さくら幼児園)





# 子どもの造形的発想について(1)

林 健 造



## 子どもの造形教育

みんちゃんは五才の男の子である。彼の絵は最近までほとんどスクリップル(錯画)の形で、よくことばでは表現するが、形には表われてこない。そして常にこういうのである。「ボクはかきかたしらないから描けないヤ。」

この「かけないからかかない」ということばのでてくるところに、実はこの子の問題がかくざれているのであるが、それはそれとして、先日始めて形をなした絵を描いた。描く前に、いつになく彼は潑刺<sup>はたら</sup>としていて、

「ボク今日は東北本線、汽車、トンネル通っていくの。」とって

いた。よほど数日前にいった宇都宮行の汽車に興味があったらしい。さて描く段になると、やはりいつものせりふである。そこでいろいろ私と話をしたのであるが、やがて力づくよく汽車を描きだした。でき上りというので「鉄橋は？」ときいてみると、確乎として「こんどは鉄橋かくの。」という。かくて二枚目は鉄橋を何のちゅうちょもなく描き上げたのであるが、話をきいてみると、想像通り、その鉄橋を先の絵の汽車が走っていくのであるという。

ここに子どもの絵のおもしろさがある。視覚的には一つであるべきモチーフを平気で二分して不合理に感じていない。子どもの絵は視覚的レアリズムでないといわれているのうなずけるゆえ

のである。子どもは汽車、鉄橋というつながりを体感として感得しているの、一枚の絵にいれなくともよいのである。おとなは、簡単に一枚の絵の中に遠近法や重置の技法をしらないためにかけないのだと考えやすいが、それだけでは解決できない。

この汽車は汽車で、鉄橋は鉄橋で分けてかいて、合わせて一枚という考え方は、子ども独特の表現であり、子どもの発想である。

このような絵は、子どもの表現の発想を、よくしつていないと、理解することはなかなか容易でない。

以上のような、子ども独自の世界から生まれる造形的な発想というものは、絵だけでなくて、「製作」の面でもより多くの例をみることができよう。しかも造形という問題を考えるときに、この発想ということは、たいへん重大な意義と、興味ある問題をもっているように思われる。

ただ、子どもの造形的な発想といえども、絵の場合と、製作の場合というそれぞれの違いではなっとくのできないことがある。例えば、ねんどで長い長い蛇を作ったりしていることと、空箱で自動車を作ったりしているときの発想は、おなじ製作であっても、ねんどの場合は、非常に絵に近いはたきであるし、自動車の場合は、窓をあくように工夫してみたり、車をつけて何とか走らせてみようと考えたりして、本質的にその出どころが違うよ

うである。

したがって、子どもの造形的な発想を言う場合に、まず近頃とりあげられている新しい造形教育の考え方について述べておきたいと思う。

### ☆ 二つの分け方

左の表は、「造形」を、それぞれの活動や、表現の形式で、四つに分けて考えたものである。

	平面的	立体的
心の表現	絵	彫刻
機能の表現	デザイン	工芸

今まで使われてきた、幼稚園の「絵画製作」、小学校の「図画工作」は、もちろん絵画と製作を、あるいは図画と工作の二本立てのとりあつかいをするという意味ではないが、二つのものを一本にした考え方であることは否めない。この場合の考え方は、いわゆる平面的なしごととしての絵や図案を「絵画」とか「図画」とよんでいたし、立体的なしごとの方を「製作」「工作」というとらえ方をしており、つまり表のタテの分け方をとっていたものである。

ところで前にも述べたように、絵をかくことと、粘土でものを作るといったものは、いかに自分の感動を表現するかという尺度

でみれば同じことではないか、という見方が成立つわけである。そのように尺度を「心の表現（心象表現）」と「機能（はたらき）表現」というヨコの分け方でみていくと、心の表現として「絵と彫刻」、機能の表現として「図案（デザイン）・工芸」が入るようになる。

どうもこのヨコ分けの方が、造形の本質的なものをよく理解しやすいようであり、しかも合理性があるように思われる。

こんどの教育課程の改訂にもなつて、小学校の学習指導要領が新たに出版されたが、この中の「図画工作」の考え方はこのヨコ分けの考え方で通されている。

## ☆ 心の表現

ある学年PTA懇談会のある話であるが、話が進むうちに、国語の教師が「場に応じた話合い」の必要性について話された。

「先日もある子どもが、仕事をしている私の耳のそばで『先生テレビ買ったよォー』と大声でいうので、『先生はお耳があるのですよ』といった』という例話を挙げて、家庭でも場に応じた発声の仕方に努めてほしいというお話であった。

このときに「さあ、こまったことになりました。実は図工科では、そのような時にはできるだけ大声で『テレビ買ったよォー』

と言えるような子どもを育てようとしているのですが。」と図工の教師はいうのである。

この二つの対立した話は、それぞれ教科の主要の目標を表わしていてもいい。なるほど場に応じた発声の仕方という事も大切に違いない。しかし、このテレビの例が悪かったのである。事実、おとなでもテレビを買ったときはうれしさに違いない。まして子どもの場合、その感動は大きい。買った翌朝、思わず大好きな先生のところにとんでいって大声で報告した気持が、本当によくわかるような気がする。この場合、この感動をおさえて、場に応じた発声でごく小さい、しかも低音で話したら何だか「申しわけございません。」と喋っているみたいなきわぬ感情になるであろう。

話はやややそれるが、こんな場合に「そう、よかったね。」と一しよになって心から喜んでやれるような教師になりたいものである。

さて、このように自分の心の感動を思いきってぶちまけていくところに、実は、絵画製作や図画工作という教科の主要なねらいがある。とくに、幼稚園や小学校低学年では、最も大きな領域を占めているものであり、自由に、のびのびとした感動の表現を通すことによって、はじめて情緒を安定させ、また自己表現に誇り

をもつようになるのである。

この意味からは、けんかをした直後の子どもが、赤色などでぐるぐるとなぐり描きをした絵と、おまつりなどを描いた絵とは心の表現という尺度からは同価値であるといえるであろう。

普通に美術といわれてきた分野は、この心の表現を主にした世界である。

## ☆ 機能の表現

心のまま、感動のおもむくままということが大切であるといったところで、それでは困る造形の分野がある。例えば、感動のままに作った建築などというものには、不安で入れるものではない。同様に、椅子などでも、ただ心のままに美しい椅子を作ってもらっても、かければべしちゃんになるような椅子であれば、何の用もなさない。家には家の、椅子には椅子の機能というものがある。

この機能を考える仕事は、心の表現よりは、むしろ頭と手とのかみあいのできた表現であり、条件下の合理的な世界である。

このような活動は、何も家や椅子のような立体的なしごとに限ったことではなく、平面的な仕事の中でも、例えばポスターなどは、あることがらを多くの人に伝達するという機能があるわけ

で、運動会のポスターが、先のなぐり描きで何をかいたのかがわからないのでは、ポスターという用をなさない。

幼稚園の子どもの活動の中にも、このような機能や用を含んだものがたくさんある。例えば、子どもたちの好んでする「おままごと遊び」のお菓子やさんの看板でも、おままごとの道具でも、機能や用があり、これが生かされないことには、遊びも十分に楽しめないということになる。

ただこの場合、間違えられると困るのは、用といっても、あくまでも子どもの用ということではなければならないことである。

以上のように、心の表現と機能の表現との両面、それに団子の串のような役割を果す構成練習といったものを含めた一つの構造を考えてみると、これは美術といったことばではむしろ不適当で、造形とか造形教育といった方が即応している。

ここでいう子どもの造形教育も、このような考え方に立っているものである。

次号は、子どもの発想について述べよう。

\* \* \* \* \*



## 個性に応じた教育

黒田成子

昨年広島で開かれた日本保育学会の研究発表の中で高橋さやか氏が「幼児教育においては園のカリキュラムということがしばしば論ぜられているが、それとともに、個々の子どものためのカリキュラムが考えられるべきである」という意味のことを言われたことは、今なお私たちの記憶にあらたなことである。

「個性に応じた教育」と言えば、とかく特殊の才能をもった子どもが大きく浮かび上ってくるのであるが、実はどんな能力の低い子どもでも、その子どもに特有の個性を持っているものである。このことはあたりまえのことであるがたいへん重要なことであるから、あらためて考えてみたいと思う。

ある幼稚園で三人の子どもが入園式の始まる前、きよろきよろした様子で遊んでいた。経験を積んだ先生は「ああ、新園児は慣れない環境で不安を感じている。何しろ集団生活は初めてなのだから、まず安定感を与え、次第に集団とはたのしい所であるということをわからせる。これが四月の目標だ。」ととっさに考えた。

しかし、この三人の子どもの保育は果して先生がいそいで考えた目標で十分なのであろうか。かりに一人の子どもは大柄の発育のよい女児であって恵まれた環境に育ち、家庭では近所の子どもを集めてしばしば子ども会などを催し、未知の人ともすぐ友だちになれる子どもであると考えてみよう。もう一人は他園で三年保育の最初の一年をすでに終ってきた元気のよい男児であるとする。この子どもたちは二、三日もすれば園に慣れてしまつて、むしろ他の子どものリーダーとして起用する方が適切であるかもしれない。

三人の子どもばかりでなく、三〇人の子どもがズラッと並んだら、先生は「個」を考える余裕もないであらう。しかし三〇人の一組は三〇人のかたまりではなく、まさしく三〇の「個」が集まつた一組であることには相違ない。

入園当初はたしかに安定感の欠けた者が多いだろうが、子どもによりその不安定の度合にも非常な個人差がある。



一か月も経つと子どもたちの本性が表れてきて個人差が著しく目立ってくる。知的に進んではいるが、行動が鈍く、またたえず先生の目を引きたがる子ども、何をさせてもゆっくりしているが、確かな子ども、新しい仕事には全然手出ししようとする意欲のない者など、さまざまである。

まったく、一人ひとりの個性を作ったもの、また作りつつあるものは何か。それをよりよく伸ばす最良の道は何か。先生はここまで考えなければ個性に応じた教育どころか組全体の一般的な教育もとりいっぺんのものになりかねない。

よく母親たちは「同じ親から生まれた兄弟なのに、どうしてこゝも正反対なのでしょう。やっぱり遺伝ですね」と言う。

たしかに子どもには持って生まれた素質がある。それは動かすことの出来ないファクターであろう。しかし、この世に生まれ出たときは一個の有機体にすぎなかったものが、次第に環境とのかかわりあいにおいて、一個の人格に成長発達していく姿こそ、教育の万能性を大きく示すものではないか。

このように子どもの個性は彼が入園する前にすでに形づくられつつあった。そして今もその過程はずっと続いているのである。ここに子どもの発達歴をよくしらべ、出生以来彼を取巻いてきた環境が、彼にどういふ影響を与えたかをみることに意味が生じてくる。この影響いかんにより、子どもは時々刻々起ってくる新しい環境にスムーズに適應することも出来、あるいは不適應に陥っ

てしまうこともあり得るのである。

子どものもつ個性、個人差は他との相互関係においてはじめて考えられることである。ここに健全な個性は社会化されていなければならぬものであることがわかる。

たとえ音楽の才能のある傑出した個性をもった子どもがいても、彼の全人格を育ていくものは才能だけではない。才能を伸ばす技術的な教育の前に、その子どもが現存している社会に適應していけるかどうか、自信と安定感をもって彼の年令相應の生き方をしているかどうかということがまず考えられなければならない。人格の基底をなす、この安定感とは「自分はいかなる個性をもっているものか、それに対して人は何と想っているか」という段階からやがて「自分も自分なりに社会に貢献出来る役目があるのだ」という自覚感に發展していく。こうした沃土に培われてこそ個性は伸びていくことができるのである。

Aという子どもの持っている情緒は友だちのBに反応し、Bの持つA観となり、再びBよりAに帰り、Aを成長させていく。Aの個性を育くむものは中正な愛情をもった理解のある家庭生活と、ギヴ・アンド・テイクの激しい集団生活の営みと、そしてこまやかな教師の思いやりある指導によるものであろう。

教師の私たちはたえずAの諸特長を明確に知り、BともCとも誰とも全く違う彼独特のボタンを見出し、Aの保育に適しいカリキュラムについて考え続けていきたいと思う。

# 教育計画と個性



福田香代子

小さい子どもほど個人差が多いと言われているが、教育的な集団の中でも最も年令の低い者の集りである幼稚園、保育園にはこのことばがよくあてはめられると思う。

実際に一組の子どもを扱ってみると、はじめのうちには似たような体質で、似たような感じと思っていた子どもが、だんだん一人ひとりについて知ってゆくにしたがって、似たようなところがあるどころか、全く身体的にも性格的にも独自のものを持っている個々の子どもが見出されて、共通している面や似ているところを探そうと思っても見出すことが出来なくなってしまう。

一人として同じでないこれら個々の子どもの幾人かを一しょにして保育してゆくわけであるが、保育の計画を立てるにあたつ

てどういうことを心にとめてせねばならぬか考えてみたいと思う。子どもたちには同一の発達、同一の行動、同一の成就を期待することは出来ない。それ故、組の中の一人ひとりの幼児の欲求に応じてそれぞれの子どもの特性が生かされ、おのおの十分活動がおこなわれるように計画を立てなくてはならないわけである。一人ひとりの子どもについての保育計画を考え、一人ずつについて実行していくことが出来るならば、それこそ最も個性に応じた教育が出来るわけであるが、それではせっかくの集団生活の意味も無くなってしまうので、結局その年令の子どもたちの発達の標準的なものを基礎として一筋の保育計画を立て、実行するにあたって一人ひとりの子どものことを

配慮しながら、ある子どもはその特性をよりよく生かすため、またある子どもには適応することを邪魔している障害をとり除くようにしてやらなければならない。それにはまず教師が子ども一人ひとりについて良く理解し、知ることが必要になってくる。

大部分の幼児は幼稚園に入園するまでは、その生活範囲はほとんど家庭の中に限られ、接触している人も家族だけであることが多い。それ故、家庭環境、家族関係、また家庭におけるその子どもの位置は、一人の子どもの知るについて重要な部分となつてくると思う。現在ある子どもをそのままで成長せしめた外部的なものを知り、その子どもの今ある場を知ることによって、子どもの個性がいくらか浮き出てくると思う。しかし、一番大切なことは、教師が子ども自身を観察し知ることである。集団生活に対する適応性、友だち関係、新しい事にぶつかった時の処し方、集中力、興味、遊びなど、あらゆる面にわたってよく知り、その子どもの立体的な、全面的な像をしつかりつかまなくてはならない。子ども一



になってからは、今までふざけて全然しようにとしなかったリズムも一生懸命出来るようになり、新しく組みかえた比較的積極性のある年令も近い子どもばかりのグループの中でも、他をも受け入れて上手にやってゆけるようになってきた。

Y男の場合は注意したいと思う点に直接ふれずに間接的に良い方を強調して、自分で気付いてゆくようにという方法をとったが、子どもによつては、このやり方では効果が上らないこともある。子どもによつてそれぞれ異つた方法をとつてゆくわけであるが、どのような場合でも最もよく注意しなくてはならないのは、その子どもの成長の波に乗つて、速度に合わせているかということである。せつかく伸びてきているもの、本来持っている良いものを曲げてしまつたり損ねてしまつたならば、個性教育の意義は無くなつてしまふと思ふ。

あらゆる機会を通じて幼児と共に学び、共に生活して子どもを良く理解し、忍耐心を持つて実行してゆくことこそ、個性に応じた教育をなし得る根本だと思ふ。(東京)

## 個性に応じた教育

青 木 道 代

個性とは、私はそれを人間一人ひとりを持つている人格性として理解したいと思ひます。Aという人間はAという人間として、何をもつてもかえることの出来ない尊さをもつて、彼の場を占め、何人もおかすことの出来ない彼らしさを彼の責任において主張している、BもCもDもこの地上にあるすべての人間が持つてゐる、また平等に主張すべき個々の人間性、これを個性と言つてよいのではないかと思ひます。

現代日本の社会において、教育の問題は渦をなして私たちを押し流そうとしています。勤務評定、道徳教育の問題、教案の画一化、すし詰め学級などと。こうした問題は直接、間接に、また現在において将来において私たちの問題であり、すし詰め学級

の嘆きは地方の幼稚園保育所にとつては小・中学校以上のものがあります。こうした教育の画一化、教師の不足、設備の不備という荒波の中で私たちは今こそ思いをひそめて子どもたち一人ひとりのことを考え、個々の幼い魂と語り合ねばならないと思ひます。百匹の中の迷える一匹の羊、それは画一化した教育企業の目からみれば百分の一の価値しかないかもしれませんが、私たち子どもを愛する教師、父母の目には、九十九匹をおいてもその一匹をさがし求めねばやまない尊い何ものにもかえがたい価値を持つてゐるはずで、百人の子どもたち一人ひとりが、そのような尊さを持つて私たちの心に受け入れられる時にはじめて私たちと子どもとの深い人格的な交わりが

可能になり、子どもの中に混沌として眠っている可能性をさがし出して、いきいきとさせる教育の仕事が始められるのではないでしょうか。

ロマン・ロランが書いた「ジャン・クリストフ」の第一巻の項に、幼いクリストフが自分の中に眠っている音楽の可能性に、次第に目覚めてくる有様が、実にいきいきと描かれています。この幼い目覚めをクリストフの祖父、老音楽家ジャン・ミシェルはクリストフがひとり遊んでいる部屋のドアをそと開けておいて、愛情深いまなざしで見つめ、発見し、手伝ってやるのです。

いわゆる才能教育も、こうした子どもの優れた芽生えを助け、正しく育てるものであるならばよいものでしょう。しかし、子どもの可能性に対する過度の期待から、また虚栄心から、無理な教育を押しつけ、伸びるべき柔らかな芽生えをさえも摘み取るようなことを私たちはしていません。近頃、急増した「おけいこ事」の流行の中に私はそうした危険を感じます。

クリストフは、やがて、彼の才能を売り物にして虚栄と出世の手段にしようとした父のために、また、彼の才能を甘やかす一方のミシエルのために、伸びかけた芽をひからびさせてしまいそうになります。この危機から幼いクリストフを救ったのが彼の叔父ゴットフリートでした。彼は言います。「お前は作曲のために作曲した。偉い音楽家になるために、人に感心してもらうために作曲した。お前はごう慢だった。お前は嘘をついた。音楽は度ましくして真実であることを望むのだ。そうでなかったら音楽なんか何だろう。こうしてクリストフは、ゴットフリートから彼の可能性の正しい流路を導いてもらったのです。

こうした優れた可能性に恵まれた子どもたちと反対に、可能性の低いまたはそれを見出しがたい子どもたちのことも私たちは忘れてはならないと思います。身体障害児、精神薄弱児童と言われる子どもだけでも全国約一二五万、この他にいろいろの面で保護を必要とする子どもたちを合わせたら、ずいぶんたくさんになる子どもたち

ほとんどが社会から見捨てられ、適当な教育も受けずに放任されているのが日本の現状です。

社会の大多数の元氣な子どもたちのかけに隠れて、これらの子どもたちは目立たないかもしれません。けれども少数だから、手がかるからという理由で、この子どもたちの弱いながらも成長すべき可能性が放任されおさえつけられてはならないと思います。岸本英男氏の「ゆりかごの学級」(平凡社刊 人間の記録双書)はこうした子どもたち一人ひとりの教育について大きな示唆を与えてくれます。「人間は精神病者でない限り教育は可能である。それゆえにこそ教育の機会均等があるのではないか」(二〇四頁)どんな子どもにも可能性を見出してそれを揺り動かす忍耐と情熱を私はこの書から学びました。天才児から精薄児まで、金持の子であろうと貧乏人の子であろうと、世界に住むすべての子ども一人ひとりの人格はどんなことがあっても尊ばれなければならず、個々に応じた教育はなされなければなりません。

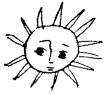
子どもが本当にその子どもらしく持っている可能性を、力一杯出しきって、その子どもでなくては持てない持味を、個性を持つようになる。そうした教育がなされねばならないと思います。

この千差万別の幼児たちを互に接触させて社会生活を与え、また広く深く新しい経験を与えていくことによって、未発達、未分化の状態にある幼児の人格を徐々に成長させ確立させることにまず私たちは努力しなければならぬと思います。人間として、肉体的、心理的にまだ一応の段階にも達していない未分化の状態にある幼児に対して、私たちは慎重に接したいと思いません。これがこの子の個性だと、早のみ込みしたり、あまりに早く、子どもの個性を引

き出そうとすることによって、期待しすぎたり、落胆しすぎたりしないようにしたいと思えます。

両親と教師が手を取り合って、愛をもつてしかも冷静に子どもを見守り、医学や心理学の助けを借りつつその成長を助けていくこと、子どもの周囲の環境を出来るだけ整えて、子どもがのびのびとその可能性を発揮出来るようにしてやること、——幼児期における「個性に応じた教育」とは結局このことに尽きるのではないかと思いません。具体的には、子どもたち一人ひとりの発達過程に応じ、また環境設備に応じ、その他さまざまな条件に応じて、私たちがその場その場で工夫をこらし、考えていかねばならないのではないのでしょうか。(岩園)

## いろいろな子どもたち



梅津慶子

私たち保育者は一人ひとりの幼児の個性を理解し、尊重し、その伸びてゆくのを助けるものでなければなりません。十人十色の幼児の個性を深く洞察し、一人ひとりの幼児に合った処方箋を持つと言うことはたいへんに大切なことであります。しかし一人で数十人の幼児を扱う私たちにあって、このことはたいへんむずかしいのであります。幼稚園に働いてまだ二年目であったその頃の私にとって、一人ひとりの幼児に対する理解よりも、何を与えようかとの生活に追われ毎日を汲々とすごしておりました。幼児たちは一応私の意図する方向について来ているものと安易な満足を覚えておいた頃、Rという男の子が途中入園してまいりました。入園当時母親は身体の大きな彼をひきずるようになって来てはサッと帰ってまいります。Rは毎朝大暴れを一通りすまずとムツツリと立っているばかりでした。もちろん他の幼児たちと律動や仕事をするとすることはありません。こうしてすごしていたある日、誕生月を調べることになり、自画像を描いて、自分の生れ月に

振りつけることになりました。Rだけがこの表に貼ることが出来なかつたら困るだろうと思つた私は、是が非でも自分の顔を描かせなければならぬと、無理にクレオンを持たせ、その手を握つて自画像を描かせてしまいました。これはあまり芳しいやり方とは思えませんが結果としては決していけなかつたとは申せませんでした。なぜならこのことがきっかけとなつて、Rの傾向を知ることが出来るようになったからです。彼はたいへん自尊心が強く、自分に経験のないこと、自信のないことはしようとしなかつたのです。幼稚園の生活の中にある出来事がすべて驚きであり、他の幼児や私たちのおこなうこと、言うことを実にこまかく見聞きしておりました。動物や植物にも深い関心を寄せておつたことがわかりました。

A子はどうみても平凡な自立しない存在の女の子でした。温和でそれ以上こうといつた長所もなく運動能力が少々劣つているのが目立つほどでした。どこかによいところはないかとみているうちに、美しいものを好み、素直に喜びとし、思い出の深いことがわかつてきました。感謝祭に集められた果物や野菜を養護所に届け、幸薄い子らのことを報告すると、A子は深く心に感じて早速両親に伝え、遂にクリスマスには両親をして養護所の子らにたくさんのおやつを贈らせることになりました。知的な面では特に目立つことはなくとも、たくさんの使用人のある中に傲ることなく、弟妹に髪をひっぱられても、がまんして己の分を黙々として守るA子のこの特性は損われてはならないと思います。

個性に応じた教育ということ、教育者である私たちの側からも考えられることで

## めだか随筆

私のメモノートより

白 杵 田 穂

始発駅で発車の合図を待つガラシとした電車に、若い母親が「一人で乗ろう」とい

あります。私たちはその欠けている点をきびしく自覚して向上を計ることは大切なことです。保育者の偏つた能力は今、ここにある幼児に現実に反映することも否めないことです。一人の先生の偏つた傾向が強く反映するのは好ましいことではありません。同じ園の先生がお互の個性と能力を理解して助け合い、欠けたことを補い合いながら、巾の広い影響を与えることはたいへんによいことであると思われれます。私たちは二十数年後の成人の理想像を胸に描きながら伸び伸びと育ちゆく幼な児らの育くみの助け手になりたいものと思ひます。

(山形)

腰かけて子どもを膝にのせた。しかし女の子は膝から滑り抜けて車内の床に座りこみ母の手をもぎ取ろうとしながら、「一人で乗るう」と泣き出す。とうとう母親は根氣負けして、「そんなら一人で乗りなさい」と一度降ろして手を離す。子どもは段のところを全身の力でよじ登り車内に上り切った。そして其の時の表情の楽しさは何ともいわれなかった。

このようなこの世に生まれ出て三年しか送らぬ幼児でも、早や個性がはつきり出ている。まして四、五才の間におのおの違った環境によって性格づけられて来た幼児は、それぞれの個性の芽生えを持って、はじめの集団生活の場である幼稚園に入るのである。その集団が教師一人対四十五名であるから、まず社会生活に適応出来ない幼児から早く適応するように努力を尽さねばならない。同時に最初の集団生活に早くもボスの存在になりつつある幼児の指導も必要になってくる。しかし指導の方法はそれぞれ個性などに応じて異ならねばならない。

それらの正反対の非社会的個性の持ち主の指導が大体落ちつく頃、その中の中間に位置する目立たないし、他の者に迷惑をかける、しかしおのおの違った個性を持っている幼児たちが明確になってくるのである。その目立たないが何らかの指導の必要のある点を持っている幼児たちを個性に応じていかに指導してゆくかを考えると、なかなか気を休める暇もない。でも教師にとっては大切な仕事なのである。自由遊びの時または集団で仕事をする時、もう少し人数が少ないならとつくづく思うことがある。個性に応じた指導をするには、贅沢かもしれないが、あまりにも人数が多過ぎる。十一面観音や千手観音がうらやましいと思ふ時もあるくらいである。

H子は理解力はあるが気の小さいところがあり、すぐ涙ぐむ。ある時自由あそびで絵を書きながら、急に、その子には珍しい大きい声を上げて泣きはじめた。そばに行き、どうしたかと尋ねるが、しばらくはただ泣くばかりである。廻りの子どもたちもびっくりして見ている。私はそばの子ども

の椅子に腰かけ、また改めて尋ねると、「お母さんがよそに連れて行くから幼稚園に迎えに来るまで待っていなさい」といったけどまだ迎えに来ない」と泣きながらいう。母が自分を置いてきぼりにして行ってしまったと思ひこんだらしい。私が、母が来ると思ったかと念を押すと、はつきりうなずく。

その間もぼろぼろ涙が頬を流れていく。私はゆっくり話した。「お母さんはけっして嘘をつかない。お母さんはあなたの幼稚園に行つたあと、妹さんの顔も拭いてやらなければならぬ。掃除もしなくてはならぬ。泥棒が入らないように鍵もかけてなくてはならない。鶏もいるから餌もやらなくてはならない。それだから幼稚園にすぐは迎えに来られない。」と話すと、泣きながら聞いていたH子は、「お母さんはお茶碗も洗ってくる」とすすり上げて付け足す。「そう、それだからもう少し待っていなさい。きつといらっしゃるから」といったので、すっかり納得したようので、母親が来るまで朗らかに遊んでいた。

R児は兄に比べると、正反対の性格で、



## 表紙絵のこと

黒崎 義介

山形の友人の女の子で、五才のとき父親と遊びに来て、何が気に入ったかそのままいつき、幼稚園もうちからで、朝小さい友だちと手をつなぎ、スキップしながら小鳥が囀るよう園にいく姿は、まるで花びらが散ってるようで、いつまでも門のところまで手をふったものだ。

一年の入学で母親につれられて山形へ帰ってからの淋しさは、今でも辛かったことを忘れない。

二年生になる時、本人の意志でこちらの学校へあがるからお迎えにきて、というたどたどしいハガキをもらって、夫婦して鳥が飛び立つ思いで迎えに行ったものだ。

もう小学四年で大きくなったけれど、この子とある限り世の幸せを感じ、幼い頃の姿が今でも私の絵にいつも浮かんでくる。表紙の子どもも、その頃のこの子の姿です。

何をするにもあきやすく、衝動的で乱暴なところがある。友だちが訴えに来る相手は、八割までがRの名を持って来る。友だちの好き嫌いの調査結果も、A級の嫌われ者となっている。兄弟三人のまん中で、下の弟はまだ赤ん坊である。母は手の離せない状態で、愛情が行き届いていないようだ。Rの唯一のお得意は鉄棒である。それを知っているの、何回まわられるか皆と一しょに数えてやると、十八回続けて回転して、まだやろうとしている。その意気込みは、何か心のうっ憤を回転しながら発散させようとしているように感じた。それからはときどき思う存分Rに鉄棒をやらせることにしている。その時ばかりは、自信たっぷり、楽しそうに見え、だんだん手荒いことをやる回数も減ってきた。

これらの諸性格の集合体である組の幼児たちは、幼いなりに自分の考え方を持ち意見を持っている。そして、それは自分の個性を通した見方、考え方である。ラジオのお話出てこいを聞いても、童話を聞いても、話の途中で、「こんなにしたらいいのに」

「あんなにした方がいいよ」とささやきながら聞いている。それで童話をする時、私は、趣意を逃さぬように留意しつつ、幼児たちのささやき、つぶやきなどなるたけ多く捉え、それを話の中にそっと織り込むことにした。そうすると幼児たちは、自分の考えていることが、話の主人公なり、その登場する事物に移行しているのを知って満足そうな顔をしている。そのように童話を媒介として、幼児それぞれの個性を通した考えを取り入れつつ、筋(プロット)を成長させていくように、私は今試みていく。

とにかく個性芽生えの時であり、好ましい個性をのばす可能性もっている幼児たちが、よりよき将来を獲得出来るよう、そして、より優れた社会生活が営まれるよう、親も、教師も、其の他の人びとも、正しい愛情をそそぎながら育ててゆかねばならない。(熊本)

# 研究会に

## 想いをほせて



山村 きよ

はじめに

一九五八年をふりかえっていろいろと自分の仕事を反省しながら、「研究のもち方」について何かすっきりしない気持ちを持ちあぐねていたところに編集部の御依頼があつて最近の「研究会の動向」を書けとのこと、私などが限られた範囲でのぞき見する研究会についてのこと、私などが一般的意見ではないと躊躇しながらも、反面には一昨年来、秋山ちえ子さんが幼児教育誌に、また婦人公論などの大衆雑誌に現在の幼稚園教育や、幼稚園の先生がたを白い目で見た批判的な記事をのせられたのを見て、多くの幼稚園の先生がたの中には共に幼児教育ととりくんで勉強し合ったり、またあちこちの研究会でお顔なじみの先生がたもあるので、誌上を通して共に考えることも無意味なことではないと考えてスペースをいただきました。

### 最近のぞき見した研究会の傾向

\*カリキュラムの形式論からぬけ出して、保育の実践にうつった現在の研究会

戦後、小学校カリキュラム論議のあとをうけて一時は形式的なカリキュラム論でわき立っていた幼稚園界の研究会も、だんだん下火になって、一昨年教育要領が示されてからは、その内容を理解するためにいろいろと研究会がもたれたり、とくにその実践指導の具体的なカリキュラムの研究に苦心している研究会が多くなったのではないだろうか？

教育要領の内容としてはっきり浮かびあがった「集団指導」や「小学校との関連問題」などあちこちの研究団体でとりあげた課題のように思います。

しかし、また中には教育要領ではっきり六領域を示されたことを重大視するのか？ 小学校の教科課程と同じような解釈をされたり、また私共が研究会を主催しようとする場合にも「自然の指導は？」、「社会のとおりあつかいは？」などと一つ一つばらばらな領域別に考える先生がたの多いことに驚きます。そして時には幼稚園教育の姿が「小学校的になりはせぬか？」と心配させられた時もありました。

しかしまた最近の傾向はそうした心配もなくなって一つ一つの

「領域のつながり」や「領域の中での友達づくり」「領域の中での生活指導」「領域をつなげるための保育形態の工夫」など幼児教育本来の姿をつかもうとする傾向もでてきたのではないのでしょうか？

### \*文部省主催のワークショップ指導者講座に参加する人たちに よる事前研究会

毎年一回文部省が西と東に幼稚園の各県代表をあつめてワークショップを開催してくださるようになってからはどの地方でもそれに参加する人たちの事前研究熱がたかまってきたことを喜んでいる一人です。

東京でも教育委員会指導室のきもいりて実に熱心に研究会がもたれています。出発前数回集って研究されたいろいろの資料をもつて参加されることはいつも二学期始に開かれるワークショップ報告会でもたのしく感ぜられることです。しかもその資料にのった研究内容は、日々の忙しい仕事の中でまじめに観察し得たものや、多くの経験の中から生まれた記録の集録などが伝達されて、とても力強く感じさせられたり、共鳴させられることがあります。とくに本年度の報告によると、各県から、実に多くの資料があつまって紹介しきれなかったとか……うれしいことです。

### \*全国国公立幼稚園教育研究協議会

昨夏東京に開催された第四回全国国公立幼稚園教育研究協議会では今まで幼稚園の研究会というところ、とかく指導技術の末端のところ、で表面的なことがだけが問題になって、たいせつな幼児教育の根本にまで及ばないことが多いように思われましたので、全国から集る熱心な先生がたによって幼稚園教育の根本的な問題を系統的に研究してみたいという主催者側の意見で、「幼稚園教育要領の正しいうけとめ」という課題のもとに四つの分科会をもちました。

○第一分科会「集団指導について」

○第二「教育要領のうけとめ方」

○第三「表現活動について」

○第四「一日の教育計画について」

わずか二日間の会期ではこんな大きな問題ととりくむことは無理であったという多くの反省がもたれたようです。しかしまた反面には予期していたような「研究の糸口」がみつかったと喜んで帰られたかたもあって、東京でも研究会のあとをうけて「自由遊びについて」「集団指導について」「基本的な生活習慣の形成について」など課題をもって継続研究会がもたれました。

しかし大多数のかたがたの中には「もちかえるおみやげがなかった」という声もあって、それが反映したのか本年第五回の研究協議会が名古屋で開催された時には二日間で一応の成果がまとまるような問題がかかげられ、次のような四分科会にわかれて、日々の教育

の中から具体的な多くの実践問題を協議し合ったり、また各分科会ごとに尊い研究発表がなされたようです。

○第一部会「自然の指導はどのようにしたらよいか」

○第二〃「絵画製作の指導」

○第三〃「言語の指導はどのようにしているか」

○第四〃「保育室の環境構成について」

私も役目から四つの分科会場をのぞき見して熱心なディスカッションに耳をかたむけましたが、どこに行っても幼稚園の先生がたは一つのタイプのあることをつくづくと感じさせられました。「発言することよりも、まず聞いたことを筆記しておみやげに」と。

しかし発言された先生がたの一言一言が日々のこどもの姿をおいにかけて、正しくとらえた事例が各地の地域性をはっきりと表わしながら会員同志結びついてゆくことにまた愉快さをおぼえました。

#### \* 東京都公立幼稚園教育会の研究

東京都公立幼稚園教育会でも今までのべてきた研究会の動向と同じようなうごきがここ二、三年來感じられるように想われます。ことに東京の場合は講師の先生がたを自由にお願いでできる便があったり、また会員の要望もいろいろで、とかく数多い研究会が開かれるためか会員の負担が多すぎはせぬかと時々心配させられます。そこで継続研究会もその運営がむずかしく、主催者としては一〇名でも

一五名でも数少ない同一会員の継続的参加を求めているのに、なかなか同一会員の出席が得られないで誠に残念でなりません。いつも違ったメンバーが多くなるために問題の把握をするために「くりかえしの時間」を多くとられて会員同志の意気が盛り上らぬままに終ってしまうことが多いわけで、かえすがえすも残念に思うことの一つです。研究方法のまずさか、研究テーマの選定をまちがえたのか?……とにかく継続研究の運営のむずかしさをつくづくと感じさせられておるとき、東私幼城南部会の「地域研究会のもち方」を拝見しておおいに参考となりました。

しかし継続研究会の運営のむずかしさはあちこちで耳にします。たとえば文部省主催のワークショップに出席したかたがたが、参加する前から小人数で勉強し合い、また開催期間中四、五日間寝食を共にして一生懸命勉強し合って、実に意気統合し、それぞれの団体に報告がすんだ後は必ず継続して勉強していることと自から約束されたはずなのに……自然と消えてゆくのはどうしたことでしょう。多忙なために出席でき得ないことが何よりの理由とは思えますが……約束した人数の集らぬことをなげいておられるグループのようすを耳にして「どこに盲点があるのか?」考え出したいものです。

#### \* 幼児の行動の評価の研究

昨年末から東京都公立幼稚園専任園長の仲間間で指導要録記入の際

におこる評価のいろいろな問題をけんとうしているうちに何かの基準をつくりたいということから始ったのが「幼児の行動の評価」ということでした。これはやや継続的につづけられそうです。第一歩として社会性の問題ととりくみ、ごく身近なことから、入園当初を手始めに研究を始め、三木先生の御指導をうけたり、東大心理学教室のかたがたをお願いしたりして一学期中の一応のまとめができたところですが、このことについては台東区富士幼稚園の松石園長が「保育の手帖一月号」にのせて下さるはずで、他の継続研究とちがってながつづきしていることは毎月十日から一週間をかぎってゆめられた組の子どもの行動記録を持ちよることで興味がつづいてゆくことだと想います。

#### \*放送教育研究会、視聴覚教育研究会など

NHKの応援によって全国の学校放送教育研究会が今年で第九回を重ねてその大会が各地を廻って盛大におこなわれ、今年も東京が会場となり幼、小、中、高、共同参加のもとに盛大におこなわれることになりました（十一月一九、二〇、二一）。公、私立の幼稚園や保育園が参加するようになったのは三年前からでおいに期待されております。ことに本年度は各地区別にも福島、茨城、神奈川、岡山、福岡などの研究会が実に盛況だったとか、放送教育の研究会がこの交換のできるようになったことをうれしく思います。

#### おわりに

最初かきましたように、今までのべてきたことはごくせまい範囲の私見でお恥ずかしい次第ですが、研究会の運営のむずかしさは今にはじまったことではなく、主催者側の運営の仕方や、司会者、講師の助言などにもずいぶん左右されると思います。ことに会員同志のふんいきはまた非常にデリケートで、二、三のかたがたの発言につれて自然に盛り上ってゆく場合と、せっかくよい発言がなされても誰もうけとめるかたがないままに、講師の一人舞台で終ってしまいうこともよくあることです。そうした中においていつも苦しむことは、与えられた問題を理屈せめにして考える人たちと、表面に表われた具体的な問題のみで処理しようとする人たちのバランスがとれないで、「いつも抽象的な問題と具体的な問題ををいりくませてもたまたしている」自分を恥ずかしく思います。

最近、秋山ちえ子さんの記事にはつぶんして抗議をするのでなく「自分たちがもっと勉強しなくては」と考え出した二、三の先生がたに相談をうけて「誰からの干渉もうけない気がするにもの言える会合」をもちました。第一回を終った感想は「研究会らしくない」というかたがたもあつたようですが、先をいそがずに、気ながに勉強してゆこうという意気込みだけはみんな持ち合つたようです。私自身おおいに勉強する機会を与えられたとはりきって出席する覚悟をもちました。（昭和三十三年十月十日 東京都公立幼稚園教育研究会長）

# 幼児のうたの

## 作曲について



小林つや江

幼児にどんな歌を与えたらよいであろうか、ということはその指導にあたっておられる先生がたや家庭のお母さんがたのなやみでありましょう。歌曲といえは、歌と曲との総合されたものですから、歌詞によくあつた曲がつけられてはじめてよい歌曲（しょうか）になるのであります。まず、

一、歌詞はどんなものがよいでしょう。

イ、あかるい心をうたったもの

ロ、たのしい気持をうたったもの

ハ、やさしい心をうたったもの

ニ、おもしろい題材をうたったもの

ホ、擬音をとり入れたもの

ヘ、動物をうたったもの

ト、植物をうたったもの

チ、自然現象をうたったもの

リ、あそびをうたったもの

ヌ、歌詞のみじかいもの

などで、幼児の日常生活から取材してもよろこばれます。

二、曲について

イ、歌詞がみじかいから自然に曲も短かい

ロ、うたいやすいもの

ハ、音域のせまいもの

ニ、音程のうたいやすいもの

ホ、リズムの平易なもの

へ、拍子は二拍子型のもの多く(四拍子・六拍子)

子)

三拍子型のもの

ト、音階は長調・短調・日本旋法などが考えられるとおもいます。

音域について

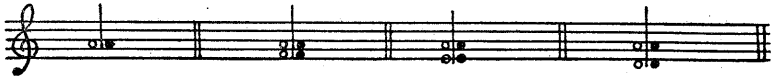
赤ちゃんがオギャーと産声をあげますがそれが一点イ音(四四〇振動)だといわれています。パウルゼンの研究によりますと下のように音域がひろがっていきます。



域です。

四分音符で表わしたのは女兒の音域です。

六才までは男児も女兒も同じ音域ということがわかります。〇才の時は一点ぐらいいですから同程度

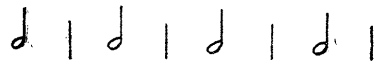


0才

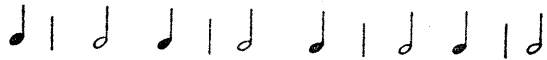
1~2才

3~5才

5才



バ  
ブ  
マ



バ  
ブ  
マ  
バ

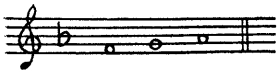
で口唇をつかう音を多くつかっています。

パーパー

プープー

マーマー

そしてリズムは右図のように同じ音の長さに近く発音しているものが多くきかれますが(二拍子で)右下図のような三拍子型にもき



ど れ み

こえてきます。

一才〜二才頃になり  
ますと、音域は一点イ  
音から下方にひろがっ  
て三度になります。す  
なわち・イ・ト・ヘ  
の三つの音が歌えるよ  
うになります。すなわ  
ちへ長調のドレミが歌  
えることになります。

「どれみ」と歌える  
ことはどんなにたのし  
いでしょう。

つぎに「ドレミ」を  
つかった歌曲をさがし  
てみましょう。

これらのうたのうた  
いはじめはみんな三度  
ですから自分がうたえ  
るような歌を先生やお

さ い た さ い た (ちゅうりっぷ)

ほら ほら ほ (はと)

(で た で た) つ き が (おつきさま)

お て ー て (くつかなる)

母さんに歌ってもらえるのはこの上  
もなくうれしいことでありましょう。

「かえるがなからかえろ」や

「たこさんたこさん

りようとをあげて

たこさんたこさん

かたあしあげて

たこさんたこさん

まわれみぎ

たこさんたこさん

もういいよ」

などのわらべうたは二度の音域であ  
るから、ちょうどお話しているのに  
リズムがつき拍子がついたので、ど  
んな音域のせまい幼児にも歌えると  
おもいます。  
また三度の代表的なわらべうたで  
ある

ゆうやけこやけ

あしたてんきになーれ

か える が な く から か え ろ

た こ さ ん た こ さ ん り よ う て を あ げ て  
た こ さ ん た こ さ ん か た あ し あ げ て





ゆう や け こ や け あ した 天 き に な 一 れ

は四拍子で四小節のみじかい曲であります。

満三才になると三年保育のはじまる頃になります。「三つ子の魂百までも」ということわざがありますが、この頃のしつけはその人の一生を支配するといわれています。この頃から体も心も生長してきます。「語い」も豊富になり、平均二〇〇語ぐらひは話せるようになります。したがって歌唱生活も急に発達してなんでも歌いたくなり、ききたくなくなる時期です。知識欲がでてきます。なぜなぜとききたがるのもこの頃です。この時期の教育は家庭でも幼稚園でも保育園でもしっかりとした指導をしてやりたいものだと思います。三才〜五才までの音域は一音下つて四度（・ホ・イ）になります。この時期はちょうど幼稚園時代、保育園時代です。学校に上る前ですから家庭のお母さんもそのつもりで保育していただきたいと思ひます。お子さんによって音域はまちまちだと思います。すからどのくらいまで手ごろかをしらべてそ

のお子さんの声にあつた歌曲をえらんで指導して下されば理想的ですがややもすると音域のひろいものを与えて無理な発声をするために調子はずれになってしまうことがよくあります。調子はずれとすぐに「音痴」というかなしいレッテルを無雑作に与えますが、これほどんでもないことで、指導者が十分考えていかなければならないことであります。ほんとうの音痴というのは病的で、音の高低がつかないで、いつもねぶかのようにふしなうたうのをいいます。これは先天的なものと病的なものとありますからよくお医者さんに診察していただひてほしいとおもひます。

では四度でできている歌にはどんなのがあつてしょう。

わらべうた

○たけのこ一本おくれ まだめがでないよ

○かりうどさん かりうどさん

きようのえものはなんですか ズドーン

○あぶくたつた にえたつた

にえたかどうだかたべてみよ

まだにえない

○おおさむ こさむ

やまからこぞうがとんできた

なんといつてとんできた

さむいといってとんできた

○あがりめ さがりめ ぐるっとまわって ねこのめ

満六才になると幼稚園や保育園の最後の年でありますから身心ともに生長してきます。したがって音域も下に一音ひろがって・ニ・イの五度になります。五度になりますと

○ちょうちょ (ちょうちょ ちょうちょ なのはにとまれ)

○ぶんぶんぶん (ぶんぶんぶん はちがとぶ)

○ぶたちゃん (ぶうぶうぶたちゃん なにいつてるの)

○ほたるこい (わらべうた)

○おみやげ三つたこ三つ (わらべうた)

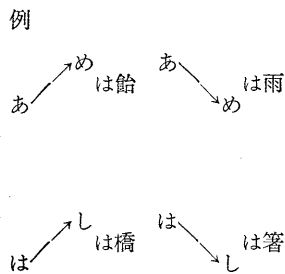
○だるまさんだるまさん (わらべうた)

○ころころ (わらべうた)

などがあります。

みなさんに曲をつくるヒントをといる編集からのお願いが大分脱線してしまいました。これからかんとんに要点をお話ししましょう。

まず歌詞を撰択したならば、何回も何回もよむことです。暗記でききるまでくりかえしてよんでいるうちに、自然にことばのもつリズムが発見されるでしょう。リズムが発見できますと、こんどは、ことばのアクセントにきをつけてみます。これは関東と関西とはアクセントが反対になるのが多いですが、ここでは標準語のアクセント



トで考えてみましょう。

上図のように同じことばでもアクセントが違つと、全然意味が違つてきますね。

アクセントがわかつたならば、不自然にならないように、はじめは、ね子か節

でもかまいませんから、声をだして歌つてみます。そして音域を考えて五線にかいてみます。そしてピアノかオルガンでひいてみます。悪いところは直してまたうたつてみます。

また子どもにおしえてみて歌いにくいところがあればそれを訂正してみましょう。

しばらくしてまたその曲をみるとぐあいの悪いところができますから、またなおして歌つてみます。有名な作曲家の先生のお話ですが、一つ歌詞に三六回もつくりかえしたとうかがった時は頭が下りました。作曲家がどんなにそのものに精神をうちこんでいるかがおわかりになると思います。

な

ぶたちゃん

に

いっ てる

の

ブー      ブー      ブー

---

ぶーぶーぶたちゃん

なにいつてるの

これは戸倉ハル先生の作詞です。これを聞いたいた時まず、ぶたちゃん  
のなき声をそうぞうしました。ぶーぶー

そのぶーのこえの中には赤ちゃんぶたがお母さんにあまえている声、おっぱいをのみたいというきもち、おねむになったとうったえている様子など想像しました。

「ぶーぶーぶたちゃんなにいつてるの」と何回もくり返しロずさんでみました。この歌の中の山は「なに」の「な」にあります。それで上のよ

な      に      いっ      てる      の

ぶたちゃん

うな旋律ができました。

拍子は二拍子で四小節になりました。音域は五度でリズムはたのしいたたんで

たんたん    たたたん    たたたん    たたたん

と自然になりました。

# ふたちゃん

あいらしく



ふーぶー ふたちゃん なにいっ てるの

ができました。  
伴奏にはぶたのなき  
声をいれてあそんでい  
るようすを出しまし  
た。  
とにかくよいことば  
をさがすことですね。  
そしてそれを情熱を  
もって作曲してごらん  
になったら、きっとよ  
い曲が生まれてくると  
思います。

# ふたちゃん

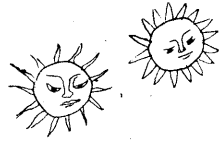
あいらしく ♩ = 88



ふーぶー ふたちゃん なにいっ てるの



# 人間の遺伝について (2)



太田次郎

## (四) 犯罪について

双生児の犯罪について興味ある研究がある。ドイツのラングは「運命の犯罪」という書の中で、ミュンヘンの刑務所を中心に調べた結果を発表している。それによると、一卵性双生児の犯罪者一三組のうち、一〇組は共に犯罪者であり、二卵性双生児では一七組中わずかに二組のみが共に犯罪者である。ここで注目すべきは、一卵性双生児の場合で、二人が別々に犯罪を侵した場合でも、その種類（強盗、さきなど）、時期や手口が一致している例が非常に多いことである。これらのことは、犯罪そのもの以上に、その人の素質によることを示している。

こうした傾向は、犯罪のような悪業に限らず、善行についてもいえると思われる報告がある。もちろん双生児の場合、育った環境の

類似性が強いので、これらを一概に遺伝的なものといえないが、遺伝の支配を無視することはできない。

## (四) 色盲の遺伝について

色盲の中で、赤緑色盲（紅緑色盲）とよばれるものが、伴性遺伝をすることは、高校の教科書をはじめ、多くの一般書に説かれている通りである。それゆえ、ここでその遺伝形式を詳しく説明はしないが要点は次のようである。

色盲の因子(a)は健全の因子(A)に対して劣性であり、色盲の因子はX染色体の上にある。人間の男子はX染色体が一つで、女子は二つあるから、男子の場合は色盲の因子型はAOとaOであり、女子の場合は、AA、Aa、aaの三つの因子型がある。したがって男子は全く健全であるか、色盲であるかの二種類の人しかいないが、女子では全く健

全盲人(AA)、色盲の人(aa)、のほかに、外見上は健全であるが色盲の因子を一つ有している人(Aa)もある。そこで、外見上健全な母親から色盲の男の子が生まれたり、いわゆる隔世遺伝とよばれる現象が起る。

このような色盲の遺伝の説明は、多くの家系で調べられた事実とよく合うので、ほぼ十分なものと思われる。しかし、全く例外がないとはいえない。

色盲は要するに色彩感覚の変異である。この場合、色彩についての感覚は、各人の眼球の構造や機能の差のほかに、心理的な要素もある程度は加わるらしい。そして、個人による色覚の差は連続であって、明白にいくつかの類型に分け得ないらしいという研究がある。色盲の判定は、ふつう色盲表とよばれるものを用いて、その中の数字を見分ける能力によって決める。前述のように、色盲の遺伝は現在の仮説でほぼ満足に説明できるにしても、色盲と健全との間に明白な線が引き得るかどうか、いかえれば二つの類型にはつきりと分けうるか否かには少し疑問がある。別に色盲表の価値を疑うわけではないが、色盲の中にも程度の軽重があり、健全な人にも色盲表をやつと見分けうる人もあるのではなからうか。そう考えると、色盲の遺伝の例外については、むしろ人為的に分けた類型に問題があるとも考えられる。何度も繰り返すが色盲の場合は例外がほ

とんどないからよいが、他の場合はいかがであろうか。簡単に健全とか病気とか分けうるであろうか。特に人間の複雑なからだを考えると疑問がある。したがって人間の遺伝を論じる場合この類型に分けるのを安易にして、後に遺伝子の仮定をおこなって、ふつうの教科書にあるようにその組合せで子孫の分離比を問題にすることは意味がない場合が多いと思う。

しかし類型に分けることを全然否定する意味ではない。もし類型を全然考えないとしたら、遺伝学はメンデル以前の混沌に戻ってしまうことは明白である。要するに、ある形質について類型に分ける場合、その意味を十分考えねばならないことである。この点も美しい遺伝学の体系の中に忘れられがちなことと思う。

#### (六) 血友病について

色盲と同じように血友病が伴性遺伝をすることは有名である。さらに、帝政ロシアの末期の皇太子であったアレクセイが血友病で、その治療が思うままにならぬのに乗じて怪僧ラスプーチンが皇后にとりいり、このことが帝政ロシアの崩壊を早めたという話は、その真实性に疑問はあるが、世界史の裏話としてかなりよく知られている。この血友病はビクトリア女王に端を発し、ドイツ・スペイン・ロシアの旧王室に伝わり、一人の王子に血友病を残したといわ

れ、その系統図もよくわかつている。

余談はこのくらいにして、血友病にもやはり重い軽いがあり、果して一つの血友病因子と健全因子とに分けるだけで十分であるか否かには疑問がある。このような類型の問題は色盲のところでも詳しく述べたが、このほかにも血友病について一つの問題が残されている。それは女子の血友病患者がないという事実である。このことはふつう次のように説明されている。女子が血友病になるには色盲の場合と同様に血友病因子を二つ(aa)もたねばならないが、血友病因子が二つ重なるともはやその人は正常な出生をすることができず死んでしまうという説明である。すなわち、血友病因子は致死因子であると考えられている。これには別の解釈も成り立つ。血友病の女子が生まれるためには、その父親は必ず血友病でなければならず、母親もまた血友病因子を一つもつ(Aa)人でなければならぬ。いうまでもなく血友病にごくまれにしか現れない病気で、患者の男子もほとんどすべて病弱で、成年までに死亡するものが多い。果してこのような男子と、さらに血友病因子をもつ女子とが結婚し、しかもその間に子どもができることはあるであろうか。その組合せの確率はほとんどないと思われる。したがって、血友病の女子がいないのは、ふつうの説明のように致死因子によるのか、今述べた生まれる確率が○に等しいためか不明である。

このような議論そのものはあまり価値はないかもしれない。しかし、多くの人間の遺伝の場合に、初めから決められた説をう呑みにする前に、まず他の説明が成り立つか否かを考える必要があるという点を強調した例である。特に、遺伝学の体系がみごとで美しいから、このような反省を絶えずせねばならないと思う。

なお、色盲・血友病など伴性遺伝をする病気について、女子の因子型がAa、すなわち健全な因子と病気の因子を一つずつもっている場合、その人は外見上健全で、因子的にも健全な人(AA)と区別できないといわれている。しかし、他の病気(眼球振盪症などでは、Aaという因子型の人も、軽度な病的障害を示すことが知られている。それゆえ、色盲についても外見上健全で因子をもつた女子(Aa)も、色盲などの詳しい調査をすれば、完全な女子(AA)と区別できる可能性がある。そして、それができれば新しく生まれる子どもについても有益な知見が得られることになる。

#### (h) 血液型の遺伝について

ふつう血液型として知られているのはABO式血液型で、その遺伝の形式も完全にわかっている。ABO式血液型は、人間の遺伝形質の中で最も安定したものの一つであり、ふつう教科書に説明してあるように、A・B両因子が劣性の因子(a)と対立し(複対立因子)、因子型

第 3 表

両親の血液型	子に現れうる型	子に現れない型
O × O	O,	A, B, AB
O × A	O, A	B, AB
O × B	O, B,	A, AB
O × AB	O, A, B,	O, AB
A × A	O, A,	B, AB
A × B	O, A, B, AB	—
A × AB	O, A, B, AB	O, AB
B × B	O, B,	A, AB
B × AB	O, A, B, AB	O, O,
AB × AB	A, B, AB	O,

がAAおよびAaのときは表現型はA型、BBおよびBaのときはB型、aaのときはO型、ABのときはAB型になる。この遺伝子は色盲や血友病

の因子と違って性染色体上でなく体染色体の上に位置しているから、遺伝のしかたは男女による差別がない。そして、両親の血液型によって生まれてくる子の血液型がある範囲内で定まる。これを表にしたのが第三表である。

ABO式血液型の各型

の現れる頻度は人種により異なり、日本人では、ほぼO型三一%、A型三八%、B型三二%、AB型九%の割合であるが、地方により差がある。血液型は一生変化しないし、その遺伝形式は規則正しく、例外がないから、親子の鑑別などに利用される。俗説として、血液型と性格の関係をいわれることがあるが、科学的根拠はうすく、そ

の妥当性も少ないようである。

血液型はABO式以外にもMN式、S式、Q式、E式、Rh式などいろいろ知られている。これらをいちいち説明する時間がないので、MN式とRh式について述べる。

ウサギに人間の血液を注射してから血清をとり、この血清に人間の赤血球を加えると反応が起る場合と起らない場合とあり、これは人により異なる。このことを指標として分けたのがMN式血液型で、人によりM型・N型・MN型の三型に分けることができる。そして、M型同志の両親からはM型の子が、N型同志の両親からはN型の子が生まれ、M型とN型の両親からはMN型の子が生まれる。このMN式血液型はABO式血液型と独立なもので、ABO式のいずれの型についても、MN式は無関係に存在する。そこでABO式で鑑別できない親子の判定などにMN式が併用された例は少なくない。

なお、ABO式・MN式・Q式・S式・E式・Rh式など現在わかっている血液型すべてについていちいち何型であるかを知らうると、九割五分以上の確かさで、個人個人を血液型の上から識別できる。このことは、親子の鑑別をはじめいろいろな社会的問題の解決に応用されている。

人間の血液をアカゲサルに注射して抗血清を作り、それに対する赤血球の反応を調べると、陽性反応を示す人と陰性の人とある。前



者のような人をRh<sup>+</sup>、後者のような人をRh<sup>-</sup>型とよぶ。この場合Rh<sup>+</sup>はRh<sup>-</sup>に対して優性である。Rh<sup>+</sup>の因子を二つもった男子（ホモ接合の男子とRh<sup>-</sup>の女子と結婚すれば子はすべてRh<sup>+</sup>である。またRh<sup>+</sup>の因子を一つもった男子（ヘテロ接合）とRh<sup>-</sup>の女子と結婚すれば子はRh<sup>+</sup>とRh<sup>-</sup>が一對一の比になる。このような結婚で、Rh<sup>-</sup>の女子がRh<sup>+</sup>の子を妊娠すると、母の血液の中にRh<sup>+</sup>の赤血球を破壊する抗体ができることがある。この物質が子の血液に入りこむと、子は強い貧血と黄だんを起し、しばしば胎児のうちに死ぬか、出産直後に死ぬ。特に、第一子は無事に出産しても二番目の子から死ぬことが多いといわれる。このような抗体はRh<sup>-</sup>の人がRh<sup>+</sup>の人の血液を輸血された場合にもできるからこのRh<sup>-</sup>の人がRh<sup>+</sup>の人の血液をふたび輸血されたときも危険である。また、Rh<sup>+</sup>の血を輸血されたRh<sup>-</sup>の女子が妊娠したときは、胎児に害がおよぶ。

Rh<sup>+</sup>およびRh<sup>-</sup>の頻度は人種により差があり、一般に白人はRh<sup>-</sup>の人が多く、東洋人にRh<sup>-</sup>の人が非常に少ない。たとえば、ニューヨークの白人では、Rh<sup>+</sup>八五%、Rh<sup>-</sup>一五%であり、日本人ではRh<sup>-</sup>は〇・六%ぐらいであるといわれる。したがって、欧米ではRh型血液の問題は相当な関心をひかれている。わが国でもRh型による胎児への影響の例は報告され、出産直後の危険にひんした赤ん坊の血液を取りかえて命を救った例もある。

このようにRh型は重大な問題であるが、Rh<sup>+</sup>およびRh<sup>-</sup>にもいろいろな程度があるようで、最近ではRh<sup>+</sup>・Rh<sup>-</sup>という単に二つの類型に分けるのでは不十分で、さらに複雑な因子に分けられている。また、Rh<sup>+</sup>の女子がRh<sup>+</sup>の子を妊娠した場合でも、母体の体質や構造によって、子に与える影響の大小があるらしい。

## (八) 結 び

以上いくつかの例について述べたが、要するに人間の遺伝には、さまざまな問題があり、早計に判断を下すことが困難な場合が多い。したがって、ある形質や病気などについて、簡単に結論する前に、それらが遺伝するか否かについて、さまざまな角度から科学的に検討することが必要である。

また、わが国でも最近遺伝の相談に応ずる専門の施設の設置、拡充がとりあげられ、着々と成果をあげつつあるので、皆さんが遺伝に関して接せられた場合、そのような施設を利用され、また利用をすすめられることを希望する。

くりかえして申したいのは、人間の遺伝について、科学的判断にもとづかない俗論や、簡単な教科書的知識は、あまり役立たない、ときには有害であると思われることである。

（お茶の水女子大学）

# 幼児の心理療法 (二)

玉井 収 介

近年、児童相談所などで、幼児のセラピーといわれる特殊な治療教育がおこなわれています。これは幼稚園の教育とは別に、特定の治療者によっておこなわれる心理療法です。先月号より玉井氏にその概説を書いていただいています。幼稚園における教育と比較しながら読まれると興味あると思います。

今回は治療場面でのいくつかの制限についてふれてみたい。遊戯療法の中では子どもは何をして遊んでもいいのであるが、それは決して無制限な勝手きままというのではない。どんなに非指示的な立場をとる人の場合でも最少限の制限がいくつかある。これは、治療をすすめていく上に必要なものである。

## 一、時間

まず第一は時間である。普通は毎週一回ずつ、一回が四〇分〜五〇分ぐらいであるから、何曜日の何時からときめておく都合がよい。この際、いつにするかは互に相談してきめればよいが、実際治療がはじまってから、予定の時間より早くきたりおそくきたりするのは意味がある。

大体子どもは親につれられてくるもので、自分からくることは少

ないが、多少大きな子どもで反社会的な行動が問題になっているような場合は、とくに、くることを好まない傾きがある。叫られたり約束させられたりすることを予想して警戒的な態度を示したりする。こんな子が、治療のすすむにつれて、そうではないことがわかってくると、くることに子ども自身が積極的になってくる。こんな場合でなくても、豊富な玩具はあるし、散らかして遊んでも叱られないし勉強は強いられないし、というプレイセラピーの場面はたいいていの子どもにとって楽しい、おもしろいはずのものである。だから、不安や当惑にみちたはじめの数回がすぎるとたいいてい子どもの方が積極的になりようこんでくるようになる。こうなると時間より早くくるといことがよくおきる。ではそのときはこちらもそれにあわせて早くはじめるべきだろうか。

原則としてそれはいけないとされている。つまり予定の時間まで待たせる方がよいのである。

では反対に予定よりおくれた場合はどうか。このときはすぐ始めるのはいくまでもないが、長さはおくれた分だけ予定からさし引いて残りだけするのがいいとされている。すなわち、二〇分おくれたきたら、普通は四五分あるのが、その日は二五分しかないことになる。これはしばしば治療に対する対抗を意味する。

それから、予定の時間がすぎてなおよろこんであそんでいる場合でも打切った方がよい。すべて、こういう点をきびしく守ることは治療者と子どもとの関係を単なる遊び相手や先生と生徒との関係でなく、特殊な治療的關係に発展させるために必要なことである。早くきたから早くはじめ、よろこんでいるから延長するというルーズなやり方では、子ども自身が治療場面で責任をもって行動するようになることを期待することができない。

治療者と子どもとの接触はこうしてきまった時間ときまった場所にかぎられるのがぞましい。

治療の方法の一つとして家庭訪問をおこなうことすらさけるべきだという意見も強い。われわれも現在ほとんどおこなっていない。子どもの誕生日だから御招待したいという申入れがあったがどうしようかという質問をうけたことがあったが、もちろん応ずるべきではない。というより、こういう申入れが出ることで自体がその母親と

その担当者との間に治療的關係が確立していないからだとということもいえるであろう。

もちろん時間の約束を守ることは治療者側にも強く要求されることで、おくれたり、すっぱかしたり、こちらの都合で早くやめたりしてはならない。また、途中で他の人が入ってきたり、治療者が外に出たりするのもよくない。だから、プレイルームには、ドアに面接中とでもいう札をかけてその出ているときは誰もあけないというような習慣をつくった方がいい。

なお、やむを得ない事情で時間を変更する必要があるとき、手紙なり、電話なり、極力手段をつくしてそれを事前に連絡しなければいけない。前の週にわかっていることなら当然そのときに話して別のアポイントをしておくべきである。

なお四五分間という制限もしらせておいた方がよい。おとなだと口でいえばわかるが、子どもではいってもわからないことがあるから時計をみせて、この針がこままでくる間、というようにない方をしてもよい。

## 二、備品を持ちかえったり、私物を与えたりしないこと

子どもによつてはプレイルームの玩具が気に入ると家へもってかえりたいといひ出すのがある。これは拒むべきである。「これはここに備えてつてあるものだからここへきたときに遊ぶの」とでもいうべきであろう。これで多少子どもはがっかりするかもしれない

が、それは治療場面の特殊性を体験させるのに役立つはずである。

これは相談室備え付けのものだからというのではない。治療者個人の私物であっても同様である。つまり、そうした物をやったり貸したりすることで仲良くなることもあるかもしれないが、そういうことは治療的関係を確立する上には有害だということなのである。

もし与えたらどういうことになるか。もしそれで仲良くなったにしてもそれでは治療者と子どもの関係は上下の関係である。治療的関係では、子ども自身が場面をリードし、行動していくのが原則で治療者側からの指示や誘導はつっしまねばならない。だからものを与えたりすることで上下の関係をつけてしまうのは禁物なのである。

また、もし、何かもらってそれで心の負担を感じないような相手だったらつぎつぎとくりかえして、ついにはそれが当り前になるであらう。学校の先生が、かわいそうだと思ってお弁当にパンを買ってやったらそれがくせになってこのごろはお弁当をもってこないのがあたり前になった、などという例を何回かきいたことがある。こんなことをしたら心理療法としては完全に失敗である。

自分の書いた絵などを持ってかえりたいといったときなどはどうしたらいいだろうか。これなどは場合によってみとめてもいいかもしれないが、絵は治療の経過をみる材料としても大切なものであるから、できれば記録と一しょに保存しておくのがいいであろう。

黒板に描いた絵などをこの次までこのまま消さないで置いてくれ

などという注文は、この部屋は他の人も使うのだからとことわった方がよい。

自分の何かを家からもってくることは強いてとめる必要はないと思われる。しかし、それは、終ったら毎回持ってかえらせるべきであらう。

### 三、玩具の破壊と治療者への攻撃

遊んでいる間に玩具がこわれることはよくある。とくに攻撃的な子どもになるとそれがはげしい。このことはある程度やむを得ないことであり強いてとめることもない。しかし、玩具を破壊することそのものが目的になるような場合には原則として制止すべきである。

こういう子どもは、それで治療者の反応をためしていることが少なくない。

こういう行為をとめるべきだというのは、玩具をそんなにこわされてはたまらないということではなく、——もちろんそれも困ることにはちがいないが——これを放任すると子どもも自身があとで罪障感を感じることがあるからである。わたくしの担当したある幼児は母親からひきはなされることに強い抵抗を示して暴れまわったが、そうしておいて家にかえると、「あんなこととして、この次先生おもちや貸してくれるかしら」と心配していたという。このときは、暴れてものをなげたりした程度であるが、実際に破壊するまで放任するとこの感情も強くなるであらう。そしてこれは治療の進行によく

ない影響をするのである。

同じ理由で治療者に直接の攻撃を加えることもとめる方がよい。

ではどうしてとめるかというところにはいえない。この例にあげた子どもが、あるとき、やにわにわたくしの胸のポケットから万年筆をぬきとって、「折ってしまうよ」と両手でねじる様子をしてみせたことがある。「してもいいよ」というと、当然とめられることを予想していたのであろうか、当惑したようにとまどいをみせて、ふり向きざまに、洗面台の石けんの中につき立てた。そして、「水かけちゃうよ」というので、もう一度「かけてもいいよ」というとまた当惑していたが、こんどは、万年筆のキャップに水をすくって治療者の腕のところにひっかけてニコリとしたことがある。

この場合は、「折っちゃうよ」といってみせているのであるから本当に折ってしまう気があったのではないであらう。本当にそうなら聞いたりしないはずだからである。それだからこそ、「折ってもいい」といわれて当惑したのであろう。しかし、幸いにも、この子が、折ってしまうという態度をくすすことなく、しかも、実際には折る気はなかったというニードをみたますような方法、つまり折れるはずがない石けんの中へ突立てる、を案出してくれたので、無事にすんだのであるが、治療者の態度としては、「折りたいんだね」ぐらいでよかったのかもしれない。この際のような応答では場合によってはよけいかりたてることになりかねない。水かけの場合にして

も同様である。

この例のように、事前にジェスチアのあるときは本当にはする気がないともいえるので、こんな応答でも大きなエラーにはならないがもっと念を要する場合もある。

もっと大きい子で、ヒステリー性格といわれていたある子どもはあるとき、突然、ペンをとりあげ、インクにザブリとつつこんで、治療者に投げつけようとした。このときは、とっさにその腕を押さえたとめたことがある。そのため机の上にインクが散ったぐらいですんだけれども、もし、治療者の洋服でも汚したりすればおそらくこの子は、いくらかの後悔を感じ、またそれをカバーするためによく暴れるなどの結果を招いたのではないかと思われる。もちろん他のものに転換させることができればそれも結構である。

なおもう一つの制限としてプレイルームから出ないということもあげられるであらう。これも、きまった場所で、という原則を徹底させるためである。

以上のような制限を除いて、子どもはプレイルームの中で好きなようにあそぶことができる。だから、遊びによる治療というのは、ただあそべばよいというものではないことが理解されるであらう。そして、こうした制限が治療をすすめる上にもっている意義もみとめられてあろう。

次にはいくつかの例をあげて研究していくことにしたい。



い さ む  
ち ゃ ん

桜 田 佐

(一)

とん、とん、とん、とん……  
とん、とん、とん、とん……

だれか戸をたたいています。いさむちゃんはねどこからとびだして、いそいで戸をあけました。そして、

「だあれ？」

と、ききましたが、へんじがありません。だれだろうと思って、見まわしましたが、だれもないようです。

いさむちゃんはいそいで戸をしめて、ぶるぶると身ぶるいをしました。

「おお、さむい、さむい！」

そして、また、ねどこにもぐりこみました。

今日は十二月三十一日、大みそかの晩です。あしたはお正月で、おいしいおぞうにが食べられます。いさむちゃんはおぞうにが大すぎです。となりの部屋では、おとうさんとおかあさんがいろいろとお正月の用意をしています。

おとうさんはおそなえをかざったり、部屋をかたづけたりして

います。おかあさんはおそうじをすませて、今、お花をいけています。松に葉ぼたんをいけています。

いさむちゃんは三畳の部屋にひとりで寝ているのです。けれど、あしたはお正月だと思つと、なかなかねむれません。

とん、とん、とん、とん……

とん、とん、とん、とん……

また、だれか戸をたたいています。

いさむちゃんはねどこからとびだして、いそいで戸をあけました。いさむちゃんは大きい声で、

「だあれ？」

と、ききましたが、へんじがありません。

どうしたんだろうと思つて、見まわしましたが、だれもいないようです。いさむちゃんはまたいそいで戸をしめて、ぶるぶると身ぶるいをしました。

「おお、さむい、さむい！」

そして、また、ねどこにもぐりこみました。

となりの部屋では、おとうさんとおかあさんがお茶を飲みながら、何か話をしています。いさむちゃんはじつと目をつぶっています。

るのですが、なかなかねむれません。

「早くお正月になるといいなあ！早くおぞうにが食べたいな！」

とん、とん、とん、とん……

とん、とん、とん、とん……

また、だれか戸をたたいています。

「ほんとに、だれかしら？」

いさむちゃんはまたねどこからとびだして、いそいで戸をあけました。そして、大きな声で、

「だあれ？」

と、ききました。やっぱりへんじがありません。

あたりをよく見まわしました。すると、戸の下のほうに何か小さなものが、じつとすわっています。

「あ、いた、いた。」

いさむちゃんは、

「そこにいるの、だあれ？」

と、ききました。

すると、白い小さなものが、小さな声で、

「ニャオー」







たいへんなさわぎです。

近よってみると、道の両がわに動物たちがずらりと並んでいます。

「さあ、どうぞこちらへ。」

と、たまちゃんのおかあさんらしいねこが、あんないしてくれました。

大きな屋根の家です。

広いひろい部屋で、下は

板敷きになっています。

いさむちゃんをまんま

かの小さな木の箱の前に

つれてくると、

「さあ、どうぞおかけ

ください。」

とたまちゃんのおかあさんが言いました。

さっきいさむちゃんをむかえてくれた

動物たちが、そろそろはいってききました。

大きな部屋ですから、みんなはいるこ

とができました。

がやがやさわいでいましたが、やがて

たまちゃんのおとうさんが、

「みなさんおしずかに。」

と言うと、ピタッとさわぎがとまって、

しずかになりました。

たまちゃんのおとう

さんが大きな声で言

いました。

「ことしのお客さんは

いさむちゃんです。」

みんな、「ウワー」と

言って、バチバチバチ

バチッと、はく手をし



ました。

(年少の組では二回に、年長の組では一

回に話してください)

## 幼児の教育 第五十八巻 第一号

◎ 定価五十円

昭和三十三年十二月二十五日印刷

昭和三十四年一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所  
フレーベル館にお願いいたします。

戸倉ハル・小林つや江 共著

うたとあそび 第一集 B 5判・一七一頁  
価三二〇円 丁四〇円

戸倉ハル・小林つや江 共著

うたとあそび 第二集 B 5判・二一一頁  
価三五〇円 丁四〇円

戸倉ハル・一宮道子 共著

おててつないで B 5判・二五頁  
価一〇〇円 丁四〇円

戸倉ハル・小林つや江 共著

ハンドカスターの ゆうぎ B 5判・一一四頁  
価三〇〇円 丁四〇円

元教育大学教授 中島 海著

遊戯大事典 A 5判・八五〇頁  
価一五〇〇円 丁一〇〇頁

安東 熊夫著

タンブリング B 6判・一五四頁  
価一五〇円 丁四〇頁

跳躍・廻転運動

元教育大学教授 中島 海著

鬼あそびと かけっこ B 6判・三三七頁  
価二五〇円 丁五〇頁

体育大辞典 B 5判・一四〇〇頁  
価三五〇〇円 丁二〇〇頁

造形教育大辞典 B 5判・全六巻  
各巻、八〇〇円 丁二五〇頁  
全巻揃 前金 九五〇〇円

東京都文京区大塚仲町2番 振替・東京68739番

不味堂書店 電話

(94) 7151(代)~3-2703 5382・7760・7769

- 園での幼児の生活にどんな内容を—
- その幼児にどのような指導を—
- これらの問題を、実践面と併せて探究する

……………申込先……………

東京都千代田区神田小川町 3-1

株式会社 フレーベル館  
A 5判 352頁 320円 丁 40円

改訂  
幼児の教育内容と  
その指導

# 幼児の 劇あそび集

- 幼児教育研究会員が研究、脚本化した24篇の劇あそびを掲載
- お茶の水女子大学附属幼稚園児に実施して非常に喜ばれたものばかり

……………申込先……………

東京都文京区大塚町 35

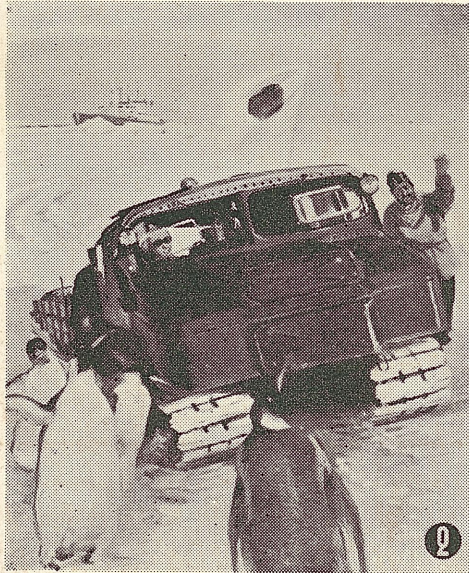
お茶の水女子大学 附属幼稚園内 幼児教育研究会  
A 5判 210頁 250円 丁 32円



古い歴史と新しい編集の観察絵本

# キングダムブック

＝第13集 第11編 2月号予告＝



☆お子さま方の感情と知識を

豊かに育てる絵本☆

△4判・16頁  
毎月付録付  
定価四十五円

## 《二月号内容》

はたらく じどうしゃ

指導・宮本 晃男先生

☆せつじょうしゃ

絵・吉沢廉三郎先生

☆ばすに のって

絵・村上松次郎先生

☆どうぶつかいかん

うた・与田 準一先生

☆としょかんばす

絵・北田 卓史先生

☆いろいろな

じどうしゃ

☆じどうしゃの

絵・上田 三郎先生

☆これからの

じどうしゃ

☆おやまの

絵・永井 保先生

☆せかいの

じどうしゃ

☆おやまの

絵と文・富永 秀夫先生

☆せかいの

じどうしゃ

☆おやまの

絵と文・富永 秀夫先生

別冊付録「つばめの おうち」  
工作付録「おーぶんかー」

〈カラー写真〉

東京都千代田区 株式  
神田小川町3の1 会社

フレール館

電話東京 (29) 7781～5  
振替口座 東京 19640 番